

昭和四十八年六月招集

第二回館山市議定会定例会會議録第二号

館山市議 会





# 目次

日	時	場	所	一
出席議員				一
欠席議員				一
出席説明員				一
出席事務局職員				一
議事日程				二
開議				二
議長の報告				二
行政一般通告質問				二
渡辺軍治郎君の質問、当局の応答				二
流山源次郎君の質問、当局の応答				二
辻田実君の質問、当局の応答				一九
石井武敏君の質問、当局の応答				三四
田村源治郎君の質問、当局の応答				四〇
発言の取消し				四七
栗原一雄君の質問、当局の応答				四七
散会				五〇
本日の会議に付した事件				五〇

一、昭和四十八年六月十三日（水曜日）午前十時

二、館山市役所議場

三、出席議員 二十七名

一 番	吉田勇治郎	三 番	流山源次郎
四 番	鈴木稔	五 番	近藤好雄
六 番	栗原一雄	八 番	石井武敏
九 番	辻田実	一〇 番	渡辺軍治郎
一二 番	藤田益治	一三 番	五十嵐昇
一四 番	伊賀多朗	一五 番	和田一郎
一六 番	辻井謹爾	一七 番	宮野敏朗
一八 番	安西益男	一九 番	島野茂樹郎
二〇 番	君塚喜三	二一 番	鈴木市蔵
二二 番	田村源治郎	二三 番	菊井敏博
二四 番	西村真次	二五 番	安沢徳順
二六 番	飯田義男	二七 番	望月照正
二八 番	田中禄郎	二九 番	秋山六三郎
三〇 番	遠山ヨネ子		

一、欠席議員 三名

二 番	林豊	七 番	渡辺昭夫
一一 番	山本昇		

一、出席説明員

第一号に加えて

交通課長補佐 豊岡一夫

一、出席事務局職員

第一号に同じ



一、議事日程（第二号）

昭和四十八年六月十三日午前十時開議

日程第一 行政一般通告質問

開

議 午前十時二分開議

○議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十三名、これより第二回市議会定例会第二日の会議を開会いたします。

議長 の 報 告

○議長（吉田勇治郎君） 本日の会議に説明員として交通課長にかわって交通課長補佐が出席する旨の通知がありましたので御報告いたします。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

行政一般通告質問

○議長（吉田勇治郎君） 日程第一、通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の六月九日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手もとに配付のとおりであります。

これより順次質問を行ないます。

なお、この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。

発言の方法は、最初の発言を二十分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて三十分以内といたします。

これより順次発言を願います。渡辺軍治郎君

（一〇番議員渡辺軍治郎君登壇） （拍手）

○一〇番（渡辺軍治郎君） 私は、市の普通財産の民主的管理について質問をいたします。

第一点として、市有地の貸し付け料についてですが、市の資料によりますと、普通財産の貸し付けは有償で七十件ありますが、その地代が坪六十円以下が二十七件、六十円を超えて八十円までが十一件、八十円を超えて百円までが八件で坪百円以下の地代が全体の七〇%になっております。

この四月一日に、北条海岸浜新田の地代は坪六十円が百八十円に値上げされたものが二件、六十円から二百三十円に値上げされたものが七件、四十二年と四十八年の二回にわたっての値上げで百八十円になったものが十件あります。百五十円以上の地代は値上げ前のものでわずか四件に過ぎません。

地代が三倍から三・八倍と大幅に値上げされたのは浜新田に限られております。これがどういう理由によるものか、お伺いします。

第二点としまして、浜新田の住居は、市営住宅の入居者が市から建物の払い下げを受けて長い間住んでいるもので、その居住権は借地、借家法によって保護されていると思いますが、地代との関係をどのように考えておられるか、お伺いします。

また、物価の値上りで困っている中で地代的大幅な値上げは居住権をおびやかすものと思いますが、この点もお伺いいたします。

第三点は、地代改定の根拠として固定資産税、地域的状況の変化等が考えられますが、どの点に重点を置かれたのか、伺います。



第四点は、全体のつり合いから見て浜新田の地代は高過ぎるので適正な価格に引き下げる必要があると思いますが、どうですか。

第五点は、北条海岸のカヤマ民宿でありますが、カヤマ、立教大学キャンプストア、和田、渡辺、さざ波青年館付近の市有地の貸し付けはどうなっているのか。

また、立教大学のキャンプストアについて付近から騒音、衛生面で迷惑しているという陳情書も出ているようですが、どう対処されるのか。合わせて伺います。

次に、那古の關井下の市有地と河合彦右エ門の土地との関係についてですが、關井下の土地二千坪は今から数十年前明治牧場の跡地を当時獣医であった河合彦右エ門が買収したものです。昭和四年十一月元那古町役場で作成した境界決定の公図によりますと、保安林と河合彦右エ門、角田常吉の土地に分れております。この公図は法務局の公図と一致しておりますので、その面積を公図面で計算しますと、河合所有分が六百八十一坪、当時山林であった市有地が五百四十坪、角田分が九十七坪、合計千百十八坪になります。

この計算は、公図を六百倍にして計算したもので多少誤差があるかも知りません。当時の山林は現在はいなくなりまして宅地化しておりますが、昭和四十七年の三月二日と四日にわたって、市で実測したところによりますと、合計で千二百五十六坪で、六十坪の誤差があります。

海岸の市道が、河合の土地を上と下に二分しておりますが、この道路敷は実測で約三百坪ありますので、これを市有地と河合との代替分とすれば、市有地の残り分は約二百四十坪、実測との差

が六十三坪ありますので、約二百坪ぐらいになるのではないかと思われますが、市のほうではどのように見ておるか。お伺いします。

また、市有地の払い下げについて一応の了解点に達していると聞いておりますが、その経過についてお伺いします。以上。

(市長本問 議員登壇)

○市長(本問 議員) ただいまから通告質問された方々六名につきまして、順を追って御答弁をいたしたいと存じますが、明確を期する意味におきまして、教育長並びに関係課長をして補足させていただきますので、あらかじめその点御了承おきをいたしたいと存じます。

ただいま渡辺議員さんから北条海岸の地代についての御質問がございましたが、これは三年ぐらい前ですか、一応坪六十円で特別な扱いでやったわけですが、これは駅の北口つまり海岸に通ずる道路を拡張するような場合も考慮して暫定的に特約してやったんですが、その特約期間も切れましたので、周囲の状況とか地代の値上りとか、いろんなことを参酌しまして四月ですか、一応払い下げた方々と話し合いでこれを決定したわけでございまして、そういうことでございしますが、また、おおせのように物価がいろいろそういうものによって考えられるということもありまして、うけれども、いずれにしても使用者側と話し合いによって、すでに調印できておって、これを妥当なものと考えましてこれを現在変更するということとは考えておりません。

それから、那古の境界線のことについてでございますが、この問題については聞いて見ますと、十八年間ぐらいいろいろ有力者



の方々とか、弁護士の方も入ったりなんかして折衝しておつたそうですが、四十六年の五月頃一応基本的なことの話し合いが整つたわけでございますが、これにつきまして、考え方について書類でこちらによこしていただきたいというようにことに話し合いがなつておるわけですが、それがそのままになって今日になっておるわけでございまして、まことに遺憾に考えておりますが、こういう問題は早く解決いたしたいと存するわけでございますがこれから相互のためにひとつやってみたい。こういうふうに考えておる次第でございます。

くわしい経過等につきましては、課長から御要望によりまして答弁させていただきますのでよろしく御検討願います。

（「不十分ですから課長から」の声あり）

〇財政課長（長谷川広治君） 補足的に御説明を申し上げます。

第一点の北条地区の地代の関係でございますが、これは市長が御答弁申し上げましたとおり、四十年に市営住宅として市の土地に建てましたもの、それに入居をいたしておりますものから要望がございまして、建物だけを払い下げたわけでございます。

四十年三月でございますが、その当時駅から海岸道路に通ずる道路で道路がほしいというようなことで、大体その辺を通る道筋でございますので、土地については払い下げをしないということにいたしましたわけでございます。

建物につきましても額が当時十九万から十四万までの間、家屋によつて違いますが、その程度で払い下げたわけでございますが、わずかの間にまた道路にひっかかる。そうして高額の家屋に対する補償を払わなければならないというようなことで、市民感情

が許さないのではないかというようなことから、家屋に対して道路用の敷地として移転をしなければならないというような場合には、市営住宅の復元価格で補償をするという条件でしたわけでございます。

そういうために、地代につきましてもいろいろ折衝がありまして、当時百円ぐらいのところでございますが、六割の坪六十円でお貸ししたわけでございます。その特約が三年間でございまして四十三年で切れたわけでございますが、その後現在に至りまして今回地代の改定を申し入れたわけでございますが、地代の原則といたしましては固定資産税程度のものを御負担いただく。固定資産税と都市計画税その合わせたものでございますが、その程度のものを御負担いただくというようなことで一応算出をいたしてございます。

当初、百円で貸し付けをいたせば、今回仮りに二百三十円にしても三倍にも四倍にもならなかったわけでございますが、当時はそういう特約の上から坪六十円で貸し付けをしてその特約が今回切れておつたので値上りが大きかったということでございます。

それから、借地、借家法との関係でございますが、もちろん普通財産でございますので、一応借家法の適用は受けます。ただし法律に定めのあるものが二、三ございますので、そのものについては法律の適用はありません。

地代、家賃統制令との関係でございますが、これで算出をいたしますと、あそこの付近は約九百円ぐらいになると思います。

それから、居住権等の関係でございますが、これは私どもできるだけ安ければ安いほど条件と申しますか、借りるほうもいいと



思いましていろいろ安くとは考えたわけですが、これも六万市民のものでございますので、ある程度均衡の取れた貸し付け料でないと困るというような関係で全員に集まりをいただきますして、そこでいろいろ話し合った結果、全員が百八十円あるいは二百三十円で了承をされて調印された次第でございます。

それから、値上げの重点と申しますか、考え方としては固定資産税程度のもので、これは都市計画税を含めての話でございますが、その程度のもと、それから年二回あるいは三回使用料の納入通知をいたすわけでございますが、その郵便料程度御負担いただくという考え方で全部の貸し付け料を計算いたしてございます。

それから、引き下げる気はないかという御質問でございますが、特に、その席上でも申し上げましたが、生活的に困るといふようなものに対しては、条例や規程の規則からいって減免ができるので申請をしてもらいたいというようなことは申してありますが、現在私どもが考えているものは一名程度でございます。

これに対しては減免措置は申請により考えたい。

それから、付近の地代との関係でございますが、これも固定資産税等の額は御負担いただくということにそれぞれなりますので均衡は失しておられない。現在の額で申しますと、やはりその土地が一番安いんではないかというように考えております。

それから、那古関係のことでございますが、これは極端に申しますと、公図と台帳坪数との記載の誤まりではないかというふうに考えておるわけでございますが、十八年間にわたりましていろいろ折衝もし、議員の方も何人か仲介の労を取りますし、その間弁護士等にもむこうのほうで依頼をしていろいろ折衝をいたした

わけでございます。

四十六年の六月に原則的な事項につきましては同意をいたしましたわけでございますが、まだ細部につきましては了解点に達しないものがございます。お年寄りでございますし、私ども行くたびにいろいろ話が違ってまいりますので、ひとつ文書にしてお出しただきたいということを申し入れてございますが、それが現在まで提出されておりませんので、一応私どもとしては内部的には財産管理審議委員会等にも一応の諮問をしてそのような場合には必要な作業を進めるということと事務的な準備はいたしてございますが、まだ進行するという程度には至ってまいりません。

それから、払い下げの関係でございますが、このときの条件といたしまして、一応市の分として認めたものを河合さんに払い下げてもらえないかという本人の申し出があったわけでございますが、それについては現在居住者がございます。それに対して高価な値段で土地の買収を迫まるとか、あるいは地代の相当額の値上りを要求するというのではやはり私も困るわけでございまして、そういうものからみ合わせまして、また文書の提出等がありまして時点で最終的にそれぞれのところにはかりまして決定をいたしてまいりたい。かように考えておるわけでございます。

○商工観光課長（鈴木 力君） 立教大学の広告部員のキャンブストアの関係につきましてお答え申し上げます。

海水浴シーズン中北条海岸に例年立教大学の広告部員のいわゆるクラブ活動としましてキャンブストアを開設するわけでございますが、海水浴のお客を対象といたしまして売店を開設いたしましてパンとか牛乳を販売したり、あるいはコーラス活動そうした



ものをやっておるわけでございますが、これにつきましては先般北条海岸の地元の方々から善処方の要望書が市のほうにまいっておるわけでございますが、今までの状況を見ますと、ある面では海岸清掃をいたしたり、そういうことで協力的に市のほうに協力していただいておりますわけでございますが、ただ夜間コース活動等を行ないまして地元の方々に迷惑をかける。こういう面もあつたようでございますので、今後は全面的に拒否するわけにはまいりませんので、よく話し合いをいたしまして、絶対に地元の皆さんに御迷惑のかからないようにということでお願いしていこう。こういうふうに考えております。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 再質問いたします。

財政課長の御答弁です。浜新田の地代は払い下げ当時の事情もあつたので特別安くしてある。こういうふうに答弁されておりますが、市のほうの資料によつてこれを見ますと、先ほど申し上げましたように、百円以下の地代のところが七〇%を占めてゐるわけですよ。だから、そういう点から見れば特別安くしたというようなことにはならないと思うんです。

それから、地代の改定の根拠として固定資産税と都市計画税相当のものは払ってもらわなければならない。こういうようなことをいっておりますがですね。固定資産税は地主にかかる税金なんです。これは逆説的にいえば館山市にかかる税金なんで、その土地を借りてゐる借地人にかかる税金ではないわけですよ。一応の根拠になるかもしれませんが、これを基本にしてそれに相当額を納めてもらうということは、これはえらい問題があると思う。

大体、今までの借地、借家の紛争で地代改正の理由は、その土地のまわりの条件がどう大きく変化したかということが大体地代や、そういうものをきめる根拠になってゐるわけです。

あそこは、前とうしろのほうと大体三かわになつておりますけれども、一番前のところが一等地だ。そのあとのところは二等地だというようなことで交渉してゐるようですが、その同地域の住民が考へてゐることは住家は本當に住みいいところかどうかということが一番問題になると思うんです。一番前のほうは海岸道路に接触してゐて、これは今市道の交通で夜遅くまで騒音に悩まされると、それから西風が吹けば海岸の砂ぼこりが家の中に入込み込んでくるというような、こういう立地条件のわるいところが実は一等地になつてゐるわけです。

だから、一体住みよい土地ということと条件としてどこでも考へるならば、そういうような条件なども考慮すれば、ただ道路に接触してゐるかどうかのという問題じゃないと思うんです。今、建築法では道路のないところには家を建てることはできないわけですから、道路のことは問題にならないし、特に北条海岸は営業してゐるところでも大体七月十五日から八月十五日ぐらいまで一カ月の営業で一年間の生活をささえなければならぬというような状態で、条件としては道路に接触して店を持っているところでも非常に条件はわるいわけです。館山の駅前や十字屋近所や、そういう商業地と比べたら非常に大きな差がある。

それから、ただいま申しましたように、居住する場合でも住みよい条件というのは、これはそうかわつてゐない。だから、七十件の市の貸し付け地の大体七〇%が百円以下の地代で貸してゐる



わけですから、こういうつり合いから見ても非常に高過ぎると思  
うんです。

特に、問題なのは固定資産税が最近上げられる傾向にあります。  
これは今後五年間にわたって毎年上るようなそういう形が出てく  
ると思うんですが、固定資産税が上るたびに地代を値上げしなけ  
ればならないような情勢になるのかどうか。固定資産税を基本に  
していけば当然そうなると思いますが、これは固定資産税要する  
に地主にかかる固定資産税を借地人に転嫁するものであって、こ  
ういふものの考え方では、今後も問題があるので相当これは問題  
があるうと思ひますので、こういう点はかえていただかなければ  
ならないと思ひます。

それから、同じ海岸住宅の付近の土地をやはり固定資産税に相  
当する額で貸しているといっておりますが、大体あそこ土地を  
借りている人は飲食店をやっております香山さんのところは家賃  
という形では払っておりません。道路占用料として三千二百十  
円ですか、道路占用料として払っておるわけです。

それから、その付近を聞いて見ますと、和田 道さんや渡辺勝  
蔵さん、青年館に至るあたりところは市は地代を取っておりま  
せん。無料で貸しております。キャンプストアも無料で貸して  
おる。そういうところには地代らしいものを取らないで住宅だけ  
に四倍近い値上げをして地代を取る。こういうことになっておる  
のが全くこれは不つり合ひではないかと思ひます。そういう点  
をどういふふうに考えるのか。

話によりますと、市は固定資産税が上ったからそれだけ地代を  
納めてくれということで、最初は個々に坪四百六十円ぐらいの地

代を要求しております。坪六十円を四百六十円というようなべら  
ぼうな高い額、これは固定資産税が上ったからそれだけ払えとい  
って、地主にかかる固定資産税をストリートで借地人に転嫁さし  
ているということが一般住民の生活圏をおびやかす問題でありま  
す。

特に、市が率先してこういうことをやることは、付近の地主が  
やはり固定資産税が上ったからといって一般の借地人に対して地  
代や家賃を借上げするということよりな、こういうことになりますと  
社会不安を引き起こすということにもなりかねません。

こういう点についてどういふふうに考えるのか。御答弁願いた  
いと思ひます。あとの問題は次の次に。

○財政課長（長谷川広治君） お答えを申し上げます。

特別安くなかったというような御発言の第一問でございしますが  
当時あの辺は百円程度でございました。ということは、いろいろ  
折衝をいたしたわけでございますが、当時の民間の貸し付け料等  
もいろいろ考えまして、百円程度というように踏んだわけでござ  
います。家賃にそういうような条件をつけたために安くしてくれ  
というところで六十円にいたしましたわけでございます。あの付近でそ  
の当時九十五円で前から貸しておった家賃がございます。

それから、四十二年に問題と申しますか、御発言の土地の奥で  
ございますが、坪百二十円で貸しております。そういうわけで、  
今回そういうものも切れましたので、先ほど申しました固都税と  
郵便料程度のもを地代として御負担いただくという線でいろい  
ろ交渉したわけでございます。

ですが、そういう住宅だけに使っていると、もちろんそれで



ないものも何件ありますが、大部分がそうでございますので、全員に集まっていたいてそういうような状況を話し合いました。それで全員が同じ基準で同じように徴収してもらいたいという申し出がありました、いろいろ額等も話し合いました二百三十円になったわけでございます。そうして五年間改定をしないというような条件、それから納期は年一回というようなことで折り合ひまして、円満に解決を、調印を見ておるわけでございます。

それから、固定資産税は地主が払うものだというような御発言ごもっともでございますが、私どもは税金としてお払いいただくということでなくて、その程度の額は御負担願えないかというようなことでございます。

固定資産税が上るたびに改定をするのかというようなことは、先ほどの条件に申し上げましたとおり、通常の場合は二年でやっておりますが、五年間改定はしないというようなことでここは約定を結んでおります。

それから、青年館、その他のことでございますが、これは普通財産と道路敷等の関係もございまして、のちほど土木課長のほうからも答弁があると思いますが、青年館につきましましてはああいう施設でございますので、無償貸し付けというところで行なわれております。以上でございます。

〇一〇番(渡辺軍治郎君) ただいまの答弁の中でですね。当然固定資産税は、これは借地人が払うわけではありませんけれども、固定資産税が上がったからといって、それをほとんど交渉の面では全部借地人に転嫁しているというあれば、話し合いの中で一応二百三十円というのをきめたわけですが、考え方の上では四百六

十円を要求しているわけですね。

だから、固定資産税が上がったらそのまま結局借地人からその分を取るということは、これは不当じゃないですか。当然その固定資産税というものは、これは法令の中でも改定の場合考慮しなければならぬ法令になっていきますが、多くの場合はその地域の条件が大きく変化したというようなことですね。

住んでる人たちは、土地を借りておるからといって、そこで一文の収入もあるわけではない。商売をやっておる人なら、その立地条件を利用して相当の利益を上げて、そういう人たちだったら固定資産税のある部分、相当の部分を引き受けてもいいかもしれないが、一般の住民はそうではないわけです。そこに住むことを目的にしているわけですから、固定資産税が上がったからストリートにそれをかぶせると、もしそちこちで固定資産税を借地、借家人に転嫁するようなことが起これば当然社会不安を引き起こします。物価高の中で困っておる中でかなり生活圏をおびやかす問題ですから、そういう点ははっきりした考え方を持ってもらいたい。

もう一つ、同じ付近の土地で市が貸しているのは百円程度と聞いていますが、これは同じ浜新田ですが、七十三円で貸しております。二件。これは市営住宅ではなく個人が住宅を建てたところであるのにこれは七十三円で昭和三十年から今までそのまま据え置きになっております。途中で改定も何もされておられません。

しかし、条件から見たら市営住宅のあったところと大体同じような条件、こういうところがそのまま放置されておって、その付近の住宅の土地が二百三十円もの約四倍近い値上りを市がすると



いうことは、今の課長の御答弁とは食い違っているわけですよ。だから、この市の出した資料によっても七十円のうちでも百円以下という地代が七〇％なんです。しかもかなり長期にわたってそのままになっていると、情勢もある程度かわっていると思うんですが、そのままになっているのに浜新田だけが特にそういう値上りをしているので問題にしているわけであります。中には、千五百坪ぐらいの土地が坪百円ぐらいで貸されているところもあるわけです。

こういう点を見ますと、市は普通財産である地代、そういうものが適正にやられているかどうかということでは疑問が持たれるわけですよ。道路敷といえども建物はこれは永久建築ですよ。そういう建物が建っているのに道路敷を宅地転用もしないで、地代も取っていない。私は調べたんです。払っておりません。払っているのは香山さんだけです。道路占用料としてこういう不公平がやられているのをどう考えるわけですか。

〇 土木課長（飯田治男君） 香山さんの道路占用について御説明申し上げます。

海岸道路を実施する際に、あそこは元海岸砂地で建設省の行政財産になっていたわけですよ。道路をつくるに際しまして、知事宛に公用廃止の申請をして普通財産に切りかえて、市のほうで無償譲与を受けたのが四十四年頃だと思えます。一応道路用地ということで無償譲与を受けましたので、今まで海岸砂地のときから皆さんお使いでしたので、その後道路占用の手続を取ってもらいたいということ使われている皆さんにお話ししたわけですよ。

ところが、届が香山さんがそれを出されて、ほかの方は何回連

絡しても道路占用の手続を取っていただけないわけです。今までそういうことでできております。

今後、そうした方々と話し合いをいたしまして、道路占用の手続を取ってもらうように指導してまいりたいと思えます。

〇 一〇番（渡辺軍治郎君） 今の道路占用料ですが、大蔵省から払い下げを受けるときは道路敷地として払い下げたかもしれません。今、道路がああいうふうになりっぱなしで、しかも道路敷の中に永久建築のようなりっぱなしな建物になっているわけです。だから、これはもう宅地として市が転用すべきものだと思います。そして正規に地代として取るのがあたりまえじゃないですか。それを今日までそのまま放任しておいて、その上、一方では高額な地代を、しかも大幅に値上げして取る。こういうつり合いの取れないことをやっているんですよ。こういう点はどういうふうに考えますか。

〇 財政課長（長谷川広治君） 固定資産税の上るたびに地代を改定していくのかというような関係でございしますが、これは将来のこととはわかりませんが、今まではそのような方法は取っておりませんが、またこの土地につきましては五年間というような契約期間でございしますので、五年たちましてどのような状況の変化が出るかわかりませんが、そのときには、また申し合わせにより全員にお集まりをいただいてそこで話し合っていく。あくまでも話し合いできめていきたい。こういうふうに考えております。

それから、普通財産と道路敷等の不均衡でございしますが、これはよく関係課とまた話し合ひまして、そういう不均衡のないように早急に是正をいたしてまいりたい。こういうふうに考えます。



でよろしく願います。

〇 一〇番（渡辺軍治郎君）　そういう不均衡をそのままにして地代の値上げをすることを問題にしているんですよ。あまり市がずさんではないか。一方では取り上げるだけはどうも取り上げる。一方では、たとえ道路敷にしても地代がかからないのをそのままほうっておく。こういうようなことは全くこれはずさんといっているのか、やり方が少しおかしいじゃないですか。

私は、将来問題にするのは、固定資産税は上るたびにやらなというようなことをいっておりますが、大体交渉の過程を見ても、これは十八人の人が嘆願書を出してから、市のほうが折衝するということになったんで、市のほうが最初からそういう形では出てないんですよ。

最初から固定資産税が上ったから四百六十円にしてくれ、半分の二百三十円には交渉の結果なったものの、最初から四百六十円という固定資産税そのものをそのまま出して交渉にのぞんでいるんですよ。

だから、借地人の要求がそれではあまり高過ぎるということですから、二百三十円になったわけですが、市のほうの考え方が、根本的な考え方の問題なんですよ。

固定資産税が上ったから、それを直ちに地代に、そのまま地代にするというようにしたことだと、市がそういうことを先導的な役割をするわけですから、一般の地主が固定資産税の上ったことを理由に地代や家賃をどんどん上げるといふようなことになりかねないので、その点が重要じゃないか。それはどういふふうにお考えになってますか。

〇 財政課長（長谷川広治君）　固定資産税と地代との関係でございますが、私どもは地代、家賃統制令の基準である評価額に千分の

五十を掛けたもの、これは何といいますか、地主の利益分と申しますか、そういうことになろうと思うんですが、その分については私どものほうは全然考えないので、税程度の額をひとつ御負担いただくような基本的な考え方ではございますが、これも今までは固定資産税等が増額をみておるわけでございますが、今回こういう一つの基準を出して、それではいろいろ折衝を始めたということでございます。これは長く借りておりますものもありますし、新しく借りますものもありますし、契約期間あるいは条件等いろいろございますので、画一的にびたりというような線は出ません。したがって、一枚の表から見れば不均衡のようなものもあるわけでございますが、私どもの考え方とすれば、ある程度税相当程度のものを地代としていただいて、あとはできるだけ安く入ってもらいたいという考え方ではございます。

〇 一〇番（渡辺軍治郎君）　固定資産税の問題が相当大きな問題だと思つて今聞いたわけですが、新しく借りる人はそのときの条件で高い地代を承知で借りるからそれでいいと思うんですよ。しかし、そこに長く居住している人は、そこに居住権があるわけですから、新しく高い地代を認めて入る人といふことに違いがあるわけですよ。

そういう点を考えて、個々の場合を考えてやるというふうな御答弁がありましたけれども、大体住居に対してはやっぱりそういうまわりの条件とか、そういうことが非常に重要になると思うので、市長さんの話でも西口ができると、あるいはそこに道路がで



きるといふようなことをある程度考えてといふような話がありました。今、今のところそういうような条件はないし、あそここの地域が大きくなつたといふような、そういう変化はないわけです。

だから、ただ固定資産税が上つたからという、そういうのが一本の理由になつてゐるようですが、そういう形でいきますと、市全体に対してこれは当然固定資産税はかかるわけですから、それを借地人や借家人に転嫁するといふような、そういう問題がかなり広がるというふうに考えられますので、この点はひとつ十分にその地域の条件なりあるいは商店街とか、住宅とかでは違いがあるわけでございますから、土地から利益を受けているものとそうでないものとの区別、いろいろ条件を考えて固定資産税一本でしぼるといふようなことは、これはまずいと思いますのでその点は十分考えてやつてもらいたいと思つていますが、この点について市長さんはどういうふうにお考えですか。

○市長（本間 譲君） 今、渡辺議員さんのお話をいろいろ伺つたわけでございますが、今の財政課長の答弁でわかりでしようが、固定資産税が上るたびに上げることとなく、五カ年間の契約を今度いたしたわけですが、その間に二年目であるいは三年目で上つたとしても五カ年間はそういう特約してあるから上げられないわけですが、私としては周囲の状況、いろいろの場合を考慮して相談して上げべき時期がきたならば、相互理解の上に變更すべきだと思いますが、市のほうが押しつけて何が何でも払えといふようなことはいたす考えは毛頭ないわけでございます。もう周囲も上つてゐるのだからやはり周囲に準じて上げなければいけないといふような事態のもとにやるべきじゃないかと思ひま

すが、たとえば、ベースアップにしても年々上つておりますし、一方収入が相当上つてきたこともいろいろ考え方が持たれると思いますが、固定資産税が上つたから直ちにそれを上げるといふようなことでのぞまないほうがいい。またのぞまない考えでありますので御了承願ひます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 時間がありませんので先に進みますが立教大学のキャンパスストア、あそこも市がただで貸してゐるわけですから、中に入つて見ましたら、便所はほんの形式だけでたれ流しのよな状態で食品を扱つておるといふことで非常に不衛生になつてゐる。夜遅くまで何とありますが、ギターやなんかひいて騒音で近所の人に迷惑をかけているといふよな状態で陳情書が出ておるようですから、この問題は市が地代をただで貸しておるといふ、そういう点からも十分これは監督して、もしそういう監督を受け入れられないようならば、土地を貸さないようにこれは強硬な態度でのぞむべきだと思いますが、その点どうですか。簡単に答弁願ひます。

○商工観光課長（鈴木 力君） 先ほどお答え申し上げましたとおり、今後十二分に話し合いをいたしまして、地元の皆さんに御迷惑のかからないようにといふよなことで指導していきたい。かように考えております。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 次に、関井下の土地の問題ですが、これはもう十七、八年もやつてまだ解決も見えないよな状態でありまして、私のほうでも一応調査した資料もありますので、のちほどこれは財政課長と話し合いを進めて早期にこれが円満に解決つくように努力してもらいたいと思つております。



この計算の上での答弁はいただけませんでした。食い違いがあるかどうか。おそらく食い違いもあるかと思いますが、時間がないのでこのへんの数字の問題などについては、のちほどまた直接に課長さんと話し合いをしたいと思っています。

それから、文書にして出してもらいたいというようなことがいわれておりますが、なかなか文書にして出すというようなことも相手によってはかなりむずかしいことじゃないかと思うんですが、こういうふうな点の行政指導、そういうものがちゃんとやられないと文書にして出てこないと思うんですが、話によると一応了解点が出た時点で判をもらっている。押してあるというようなこともいっておりますので、そういう点は今後十分にひとつ相手の立場にも立って、市のやはり財産でもありますから、適正な価格で払い下げするなら払い下げするような話をひとつ進めてもらいたいと思います。以上です。

○議長（吉田勇治郎君） 次、流山源次郎君。

（三番議員流山源次郎君登壇） （拍手）

○三番（流山源次郎君） ただいまより水産、消防、福祉の三点について質問いたします。

まず第一点といたしまして、磯根資源の開発とその行政についてでございますが、昨年度でひとまず打ち切りました館山船形漁協に対しますところの並み型魚礁でございますが、某サルベージ会社の水中撮影により驚くべき事実が発見されました。

それは、館山湾内うつほ根に投下されました並み型魚礁が昭和三十九年度のものはりっぱに築礁として役目を果しておるのでございますが、昭和四十二年以降のものは魚はおろか海藻すらつ

ていないという事実についてどのようにお考えでしょうか。

また、今年度新しい事業といたしまして、アワビ種苗の放流における今後の管理等についてのお考えをお聞かせいただきたいと思っています。

第二点といたしまして、非常勤消防団の活動についての評価を市としてどのように見ておりますか。また予算措置等は昭和四十五年以降市としては十分なる予算の増加をはかっておられることを知りましたが、たまたま地域におきましてのまだそれに対する増額の声がかかりますので、この点をお聞きいたしたいと思

います。それから、消防団の団員数でございますが、館山市としても少数精鋭主義のためまえから団員の制限を設けまして、しっかりした消防団をつくるということに努力しておるのでございますが、新規加入団員に対しますところの教育というべきものが、やはり時代の流れにおきまして、幹部、先鋒消防団員等がかなり苦勞して行なっておるということでございますが、今度ある地区におきましては、消防団員の不足をきたしておるという現状でございますが、館山市といたしましては、今後の対策等をお聞かせいただきたいと思っています。

第三点といたしまして、福祉関係でございますが、民生保護費の支給額等においては、これは国の予算において定められるものでございますが、現在一人暮らしの老人においては養老院にでも入らなければ、とても現在の民生保護では人間としての一カ月の生活が不安であるというような現状もありますし、また同じ民生保護を受けておる方でも身寄りの少ない、特にひどい家庭に対する



ところの困った現状というべきものがたまたま聞かれるのでございますが、これは市独自のものでどうしようもないのでございすが、国に対する今後の民生保護の増加を訴えて、積極的に行なり考えはないかどうか。

また、市独自において特に民生保護を受けたものの困っておる方に対する救済措置はないものかどうか。

この三点を質問いたします。

(市長本間 譲君登壇)

○市長(本間 譲君) 流山議員さんの御質問につきましてお答えいたしたいと存じますが、磯根資源の開発とその行政についてというようなことでございますが、一番目については育てる漁業ということで築磯事業はきわめて重要であります。そのため、館山船形漁協の魚礁設置事業に対しては過去十年あまり助成を続けてまいりましたが、投入場所が地元あぐり網漁業等の関係で話し合いの結果、うつほ根付近に投入したのであります。

水深が二〇メートルぐらいあるので、光線の関係で海藻類の発生に年数がかかり、そのため二年乃至三年しか経過してはいない魚礁に海藻の発生も、魚群も根づいておらないのが、早い時期に投入した魚礁には、早く投入したものは海藻とかあるいは魚群がついておるわけでございますが、短かいものは光線のぐあいでもだつておらないと、こういうことでございますが、これは年数を経るに従ってつくると思うわけでございますが、今後は水深等を考慮、検討して漁協の要望によって実施してまいりたいと考えております。

なお、予算援助については国、県の補助が六分の五ついており

ますので、市は事業費の一割程度を加えて助成しておるのでございます。

二番目については、アワビ種苗放流は、これは増産対策上非常に重要なことと思われませんが、そのため、今後も漁協の要望に応じてできるだけ助成いたしてまいりたいと思います。

せっかく放流しても生育しないうちから取られては効果が上らないわけでございますので、それについては無断で取られないように、いろいろ考えてまいりたいと思うわけでございます。

消防団活動についてでございますが、御承知のように、消防団員の方々には、それぞれ職業を持っておられ、そのかわり当市の防災の任に当たられておりまして、これに対しては、日頃から感謝を申し上げておるわけでございます。

おかげさまで、当市におきましては、消防団員は減少をするような、今のところはないわけでございまして、相当これにつきましては、本年はこの労に報いるために出勤手当を四三%増額をしてまいったんですが、来年からは団員の報酬の増額をしてまいりたいと考えておりますが、いずれにしても消防力の強力ということは生命、財産を守っていただく重要な立場に置かれるわけでございますので、大きく考えて対処していかなくちゃならないと考えておりますが、消防団員の確保については今のところは大体予定の人数が確保をされておると私は考えておる次第でございます。

それから、生活保護の関係についてでございますが、御承知のように生活保護については国の法律によって施行しているのでございますが、この保護費については毎年毎年詳細な調査を実施し



て、その基準に適合するようにしてこれを申請してゐるわけでございます。

しかしながら、ただいまお話しのように、まだまだ困つてゐる人もたくさんあるそうですが、これについては年々一四％程度の支給額を改善されてゐるわけでございますが、恵まれない方々に対する保障ということは非常に大事なことでございますので、国、県に対してできるだけめんどうを見てもらうように働きかけていきたいと思いますが、市独自においては、これを国、県以上の援助をするということは、今の館山市の財政から見まして困難じゃないかと思いますが、将来はまた考えていきたいと思いますが、そのように御了承をいただきたいと存じます。

○三番（流山源次郎君）　せっかく市として磯根資源の開発に、養殖事業に力を入れての予算措置につきましては、本当に感謝申し上げてゐるものでございます。

しかしながら、市民の血税によるところの予算が魚礁となつて海に投じられた。しかしながら、それが何らの成果も上げなかったということは、市民の血税が海の中にただのように投げ捨てられたというふうなことになる、結局、私といたしましても非常にさびしく思うものでございますが、この原因につきましましては、私も漁協関係者といたしましても、水産試験場等を通じて原因の究明等をしたのでございますが、的確な回答が得られなかったのでございますが、市といたしまして、この原因につきましてもどういふ調査をされましたか。また、市といたしまして、調査結果が何かわかりましたら教えていただきたいと思ひます。

○水産課長（谷貝茂生君）　魚礁をつくつて漁場をふやしていくこ

とが海草類等の増殖をはかるという意味から、魚礁等は国でも効果というものを測定いたしまして、沿岸漁業の構造改善事業として多額の助成をしながら推奨してゐるわけでございますが、効果につきましましては、研究機関におきましても立証されておりまして、そこで六分の五の補助まで出して国は推奨してゐるわけでございますが、ただ、水深が深くなればなるほど光線の到達が時間がかかるし、弱くなるということで、海草類の繁茂というものはある程度光線がなければならぬということで、水深によって遅くなくてくるといふことは言われてゐるわけでございますが、今迄の状況を見ましても二〇メートルぐらいまでのところであれば、こんな年数がかからないで海草も繁茂するし、またそうすれば魚もつくんだといふことであるわけでございますが、本来ならば一〇メートル前後ぐらいに投入したかったのでございますが、ただ、ほかの網等の関係もございまして、うつほ根付近といふことになつたわけでございます。

投入したものがむだに使われたといふことじゃなくて、昭和四十八年からもうすでに十年ぐらい実施してまいつたわけでございますが、古い分につきましましては繁茂しております。魚も相当ついて効果は上つてゐるわけでございますが、深いところは、結局そういう魚礁が深いところほどない。ないところに年数がかかつても漁場ができたといふことは、私は大きな成果ではないかと思ひます。

実際に、もぐつたりなんかする機会はありませんけれども、漁協でもいろいろ状況を聞いたりなんかして、確信を持って実施してもらふように市のほうに頼んで、構造改善事業として取り上



四 戸 力

けたわけでございます。たまたま深田サルベージが館山湾内で自分の企業の、深いところで試験をするというために場所を使わしてくれという話があったときに、ついでに今までやった魚礁の状況をカメラにおさめてもらいたいということで頼んで調べたわけでございますが、全部調べたわけじゃございませんで、古い分と最近やった新しい分を二カ所だけを調べてもらったわけでございますが、古い分については相当魚群も根づいて成果が上っているということが確認されております。

ただ、二、三年前に投入したものにしましては、まだ海藻もついてなく、しらがって魚もついてなかったということで全般的に調べたわけではございませんが、ただ、話に聞きますと、あの調査だけでも百万円以上かかるということでございましたので、経費の関係もありまして徹底的な調査までまだやっておりませんけれども、この前調べてもらった結果からしますと、相当の成果は上っているものと考えますが、今後これらの問題につきましても、どういふふうに調査していったらいいかは組合とも話は進めておりますので、いまだ少し詳細なデータは今後研究課題として取り上げてまいりたいと思っておりますので、よろしく。

○三番（流山源次郎君） 昭和四十二年以降の先ほどお話しいたしました並み型魚礁の、魚礁としての役目を果たしていないところの写真による事実でございますが、この当時から地元の漁民の間におきましては、たとえ、広い、深い海であってもアク抜きのないコンクリート魚礁をつくってそのまま毎年毎年海の中に入れたら、海の中を荒らしはせぬかという心配が非常に漁民の中にあつたのでございます。それが、不幸にして的中してしまつたという事実

でございます。

水産試験場が、御承知のとおり近いうちに千倉に移転してしましますが、先日の海上公害の問題につきましても、水産課長さんにおきましては、水産事務所があり、水産学校等もございまして、そういうところのものと密接な連絡を取って海の研究をすれば公害等に対する対処も十分できるというお話しでございますが、その考えは特殊な海の海上、海低の問題というものからみまして、今でもおわかりございせんか。お聞きしたいと思ひます。

○水産課長（谷貝茂生君） 試験場が千倉のほうに行くことは事実でございますが、水産大学の実験場が坂田のほうに進出するといふこともございまして、今後、いろいろ調査する上におきましても、水産大学の規模は相当大きいようでございますが、それらのお力添えをいただけるものと期待しております。

また、試験場が千倉にいきましても、当市の試験についてはたえず出張等でもって今までのような調査については影響のないようにするというところでございますので、そういう心配はないと思ひます。

また、先ほどの魚礁の問題で、コンクリートの大量の投入ということも、これはほかの地区でもまだまだ規模の大きなもので静岡あたり見ますと、単年度のうちに大型のものを投入したりしてやっております、別に影響のあるということとは聞いておりません。

ただ、投入したやつは海藻がつかない。どろのといふことはいろいろいわれますけれども、これはあくまでも光線の到達の関係でございます。浅いところにやったものは、もう二、三年でも



つくってはないかということがいわれておりますが、さらにこれは私も研究したいと思います。

○三番（流山源次郎君） 私は、考えますのには、現在、館山市に市長の諮問機関でございます水産振興審議会というものがございしますが、これは私が体験したもので、大体一年間に一回ぐらいの会議をもって終ってしまうという現状でございますが、今まで話し合いました水産試験場の移転とか、そういうものを加味してまた今度の魚礁の問題等から見まして、これをもっと年に四、五回ぐらいの水産振興委員会というものを本当に活用できないかどうかが、それをお聞きしたいのでございます。

それから、現在、水産振興委員会の中には各組合の組合長がメンバーとして顔をそろえておるのでございますが、今まで二回の水産振興委員会の会合を見ましても、ほとんどの組合長が出席してないんですよ。たまたま一人か、二人の組合長が見えるという状態でございます。

組合長というのは、ほかにあらゆる面で県折衝とか非常にいそがしい、多忙なので、そういう水産振興委員会に仕事が多分出て出られないということが多いと思うんですが、もっと真剣に海の行政というものを考えて、水産振興に対する話し合いをするというのでございましたら、もっと広い層から漁民なり、または学識経験者の広い層からこの水産振興委員というものを集めまして、それで、これによって館山市の一応水産というべきものは水産振興委員会において、もっと十分な時間をかけて、また審議の数をふやして話し合いを持ち、水産業に対するところの方針というべきものを立てる基礎にしたらどうかと思うんですが、また、もう

一点といたしまして、アワビの放流でございます。

これは、当然地元の漁協が県に申請を出しまして禁漁区を設けます。確かに、管理権は漁協にございますが、ただ、今までの例を見ましても、館山あたりには日本全国からダイバーでございますが、現在、近代的な酸素ボンベを積んだダイバーが公然と入って磯のものを取っておるのでございますが、それに対して各漁協におきましても、一応監視員という名目で取り締まり、注意を与えているんですが、日本の海でわれわれがもぐって何がわるいんだ。われわれがこの機械を買ったときには、業者が館山の海と大原の海だけはいつもぐっても自由なんだということをいっておるのだそうでございます。白浜とか、西岬そういうところは海女さんが専門でアワビとかそういうものは大きな漁業でございますので昔から取り締まりが厳としてありますが、現在の館山はほとんど無警察状態である。

ここに、アワビの放流をした。それが禁漁区という名前をつけても、地元の役員が行って注意してもむしろあべこべに水中銃になるもりを突きつけられておどかされるという現状でございます。それ以上のものに対しては、漁業会として取り締まる権限はないのでございますが、これはあくまでも市なり、県なりが相談いたしまして、何とか力を貸していただかなければ、せっかくまた大きな予算をかけてアワビの放流をした、結局それが無制限に採取されて密漁されてしまうという結果が出るということになります。と、せっかくの予算措置の裏づけが何にもならなくなると思いますので、これに対するお考えをお聞かせいただきたいと思います。

○水産課長（谷貝茂生君） 最初の水産振興審議会のことでござい



ますが、これは問題があれば市長から諮問をしまして、その意向をまとめて市長の意思決定ということで、相談をかける機関として設置されておるわけでございますが、ただ、委員の方々が組合の方々、議会の水産専門の方々とか、知識経験者という方々によって構成されておりますが、組合の団体の代表者は、たえず私たちふだんでも密接な連絡をもってやっておりまして、たえず水産のことにつきましては御意見等も拝聴しながらやっております。

また、議会のほうも議員さんの立場で、私たちのほうで委員会その他でもってこういう機会をとらえてやっておりますので、個々にはいろいろの立場でもってたえず御指導はいただいておりますわけでございますが、一堂に会しての審議ということになりますと、問題があれば当然おはかりするわけでございますが、ただいまの御意見につきましては今後考えてまいりたいと思います。このように考えます。

それから、アワビの放流でございますが、これは今度船形にするのは初めてでございますが、三千個全部標識をつけまして、沖の島に五百個、あとの二千五百個船形地先の平島の灯台がございしますが、あの付近に放流したわけでございます。

近いところでございますし、管理、取り締まり等もあるいは近いところでございますので、盗難のあれも心配なくやれるのではないかといいことでございますが、なお、監視につきましては十分監視体制を取ってやっていくということ、小さなやつでございますので、三年ぐらいいは何とか組合にはかって取らないような方法でもって保護しながらやっていくことでございますが、ただ、投入しました場合、アワビの場合、期間と大きさによ

りまして県の規則でもってきまっておるわけでございますが、公然とそれを取ることは、それでなくてもふだんできないことになっておりますけれども、公の場合の盗難になりますと、これは取り締まりの資格のある人がやることになります。今のアワビの放流の場合には自主的に、やはり組合でも金も相当かかっておりますので自主的に組合員全員に協力を求めてやっていくということで、場所も近いところでございますので、何とか心配なしにやるのではないかとというふうに私どもはそういうふうに考えております。今後、密接な連絡を取りながらやってまいりたいと思います。

〇三番（流山源次郎君）　よくわかりました。

次に、消防について先ほどの市長さんの説明によりまして、消防行政または消防予算というべきものは、非常に他の市町村に負けない増額の線もよくわかっておるのでございますが、たまた地元の消防の総会に出席いたしまして、消防の会計報告を見せられたのでございますが、ただ、地元の消防団が地域消防という面がございまして、受益者負担という原則からでございますか、地元の消防後援会費というべきものを大体七〇％もって補っておるというような予算措置を見せられたのでございますが、ただ、私ここで要望しておきたいことは、御承知のとおり、一昨年度は大体一万四千二百十二円のある消防団の赤字が繰り越されておるのでございます。そうして昨年度、ちょうど今年の三月の決算期は、その赤字が倍になりました二万八千七百二十七円が次年度に今年度に移り越されるという数字を見たのでございます。

せっかく、市でも消防に力を入れて予算措置をしてくれるので



ございますが、こういう地域の消防団として赤字を見るとい  
とでございますので、その予算増額というべきものにもう一度真  
剣にお考えいただきたいと思いますが。

〇 交通課主幹（岩田 実君） お答えいたします。

ただいまの御質問は、消防後援会の予算ではないかというふう  
に考えるわけでございますが、実は、昨年いわゆる千葉県消防団  
の操法大会が毎年開かれておるわけでございますが、昨年館山市  
を代表いたしまして船形の一分団一部いわゆる流山議員さんの地  
元の部が出場いたしましたわけでございますが、訓練の結果、昨年度  
は努力賞第五位でございましたが、優秀な成績をおさめたわけで  
ございました、そういうふうな団員の訓練につきまして地元でい  
ろいろ御後援願った結果、そのような優秀な成績をおさめたわけ  
でございますが、その費用がだいぶかかったんではないか。この  
ように考えておる次第でございます。

平常の年であれば、そういったふうな赤字というものはないの  
ではないかと考えるわけでございますが、そんな関係でそのよう  
な結果になったんではないか。こういうふうに考えておるわけで  
ございます。

先ほど、市長の御答弁にもございましたように、訓練手当も本  
年度約四〇%以上増額されました、これが昨年ですと操法大会の  
出場のための訓練というふうなものにもこれが増額されたわけで  
ございますが、本年度から増額と相なったわけでございまして、  
今後もそういった面には十分改良していくんだ。このように考え  
ておる次第でございます。

〇 三番（流山源次郎君） 最後に、福祉関係でございますが、先ほ

ど私がお話いたしました民生保護の非常に貧しい家庭の面でご  
さいますが、実は、たまたまその七十歳の老人の方が家に見え  
まして、実は、自分の孫が館山病院の精神科だと思いますが、そ  
こに入院しておるのでございますが、それで、月に何回か自分の  
家に帰ってきて、その親に對しまして、私なんかは別に病院でほ  
かの仲間が菓子を買ったり、あめをしゅぶったりしているけれど  
も、自分はそういうことはやらないだけども、自分に対して  
下着だとかそういうものに使うんだから金をくれということで、  
民生保護を受けてさんさん今まで働いてきてもう働きがでない  
という親に對して要求があるのでございますが、市の福祉課のほ  
うにお願いいたしましたも、当然借りた金に對しても七千なが  
しかのものが支給されているんだ。これが現在の民生保護の全部  
の姿だと思っております。

ところが、実際親として見れば、自分の子供がきて、たまたま病  
院から帰ってきてねだりするということになれば、自分たちは民  
生保護のものでぎりぎりの生活をしていると、しかし子供にいわ  
れれば削ってもやらなければならぬ。身内というべきものが親に  
對して援助することがほとんど不可能な状態の家でございまして、  
そのむすこさんが何が原因で館山病院精神科に入っているかとい  
うと、かれは戦時中に常磐炭坑に徴用されて、あのとき増産  
増産によって夜ヒロポン等を打たれて石炭増産に励んでやったそ  
うでございしますが、それが結局麻薬患者になってしまつて終戦後  
自分の家に帰ってきて、結局帰つた当初はどうやらこりやら働い  
ておつたのでございますが、現在はほとんど働けないということ  
で精神科に入院しておるのでございます。



同じ民生保護の資格のある家庭であっても、特にそういうひどい家庭ということになってくると、われわれといえませんが、そういう相談を持ってこられても国の規則、市の条例ということではこれが限度だということはどうしようもないので、なぐさめようもなかったという事実でございますが、私として市に対してどうのこうのという答弁を求めるのでございせんが、今後の民生保護の問題に対して、そういった特に困った困窮者に対するところの救済措置とか何とかというべきものを、何か市としても考えていただきたいという要望をいたしまして以上で私の質問を打ち切ります。

○議長（吉田勇治郎君） 午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時開会いたします。

午前十一時三十五分 休憩  
午後 一時 七分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 午後の出席議員数二十四名、休憩前に引き続き会議を開きます。

次、辻田 実君。

（九番辻田 実君登壇） （拍手）

○九番（辻田 実君） 四十八年度の市政の基本的な方針と、それに伴うところの医療、教育、観光についての具体的な問題を御質問申し上げたいと思います。

本間市長は、市政の方針といたしましてアイデア市政を行なっております。このアイデア市政の中において医療制度の問題はかなり現実と溝ができておるように見られるわけでございます。

すなわち、本年度は七十歳以上の老人医療と相まって五歳児未

満の乳幼児の無料化をこの秋から実施するわけでございますけれども、これによって相当数市内の診療量が増大していくのではないかとこのように見受けられます。

これに対して、医療機関の受け入れ状態というのはすでに飽和状態を通り越して、むしろ混迷を招いておるような状況にあるのではないかとこのように伺えるわけでございます。この点をどのように判断されておるかということが第一点でございます。

第二番目には、医療費の無料化の拡大によって予想されますところの健康保険会計の赤字と患者の受け入れ側であるところの医療関係者との話し合いが十分なされかどうかということでございます。

アイデア市政の中において、確かに今日の老人の医療問題について医療費を無料にすることによって、その解決をはかろうとするところの市の方針と、そしてこの老人を受け入れて治療するところの病院側との話し合い、要望そういうものが十分になされておらないのじゃないかというふうに考えられます。

聞くところによりますと、五歳児未満の乳幼児の医療の無料化に伴ない、この実施にあたりまして歯科医師会との話し合いが非常に難航しておるという状況でございます。これらについてはどのようにお考えなのか。

そして、私はここで申し上げたいわけでございますけれども、市民の健康を維持すること、その方策といたしまして、ただ単に医療費を無料化するということだけでは、私はあまりに市政として軽率過ぎるのじゃないかというふうに伺われるわけでございます。



むしろ、市が医療行政として力を入れなければならないのは、たとえば、学校保健婦の定員の現状がどうなっておるのか。はっきりさしていただきたいと思ひます。さらに市民の健康診断がどの程度普及しておるのか。これも検討していただきたいと思うわけでございます。老人、幼児等の専門病院はどうなっておるのか。緊急医療体制についても十分なのか。緊急医療指定病院と市の緊急自動車との関係が十分なのかどうか。

さらには、どこの病院にいつても看護婦の絶対的不足、これはもはやこれからの大きな医療問題になっていくんじゃないかというふうにいわれておりますところの看護婦の確保の対策がどうなっておるのか。

さらには、母子手帳、学校の健康診断があります。さらには成人になってからの成人の医療診断等が行なわれております。しかしながら、この母子手帳を小学校、中学校の保健婦または保健管理者が十分に活用してあるかどうか。

さらには、学校で行なうところの健康診断書の内容がつぶさに家庭の保護者に伝えられてあるかどうか。小学校の診断書が中学校にそのまま渡っていつてあるか。中学で行なっているところの健康診断が高等学校さらには就職したところの事業主に対してそれが伝達されているかどうか。こういう一貫性については不十分のように思ひます。

私の子供がいつてある小学校等については、こうした問題は決して十分だと思ひません。若干市内の小、中学校を聞きました。高校の先生に聞きましたけれども、こうした一貫性ということについてはまだ不十分でございます。

こうした問題は、そう経費もかけずに私はある程度行政の中で私はできる問題だというふうに考えられますけれども、こうした問題等についてはどのように考えておるのか。お伺いしたいわけでございます。

そういう観点に立つて、市民の健康手帳の発行と、そして予防指導というものはなされないかということでございます。健康診断についても老人の高血圧だけではなく、また小、中学生の検便だけでなく、さらに眼底検査、心電図、コレステロールの検査こういうものを総合的に行なつて、こういうもののカルテを市の行政レベルにおいて管理していく方法はないのか。

武蔵野市等においては、すでにコンピュータ等を導入して市民のこれらの検査を十分にしておるわけでございます。したがって、一市民の健康というものが幼児から学生そして成人に至る過程が綿密にコンピュータに入れられることによって、その人の一生涯の健康管理の方針というものが打ち出されておるところもあるわけでございます。

こういう方向に私は進んでいくことが、やはり医療行政の最も基本的な問題ではないかというふうに考えられるわけでございます。

館山市は昨年、健康保険の会計におきまして二千二百五十万の赤字を出しまして、一般会計から繰り入れをいたしました。本年度は当初予算において一千万円の費用を繰り入れております。独立会計でありながらこうした状況があるわけでございます。

私は、ここでもって市長に考えてもらいたいわけでございます。昨年は二千二百五十万、今年はたぶん一千万円以内の範囲内でも



って健康保険会計をまかなっていけるという自信があるようではないですけれども、これだけの多額の金額を、私は医師会、歯科医師会そういう医療機関との相談の上、そして現実に私が申し上げましたところの本来の医療行政の強化にその費用を使っているならば、私はむしろ健康保険の赤字解消というようなことの中でもって、毎年このような多額の金を使う必要はないのではないかと、というふうに考えられるわけであります。

こうしたところの予防行政、そうしたものが進むならば、私は老人の人たちが病院にかならなければならぬとき、また幼児の人たちが歯医者にかからなければならぬとき、そういうものがかなり緩和されていくのじゃないかというふうに思います。そのことによって病院もいそがしさから解放されるでしょうし、昼夜朝から夜までぶっ通しでやっているような医療機関の状況が解消され、八時間労働、館山市も今年から週休二日制に踏み切り、病院においてもこうした予防行政というものが十分進められれば週休二日制にもなるでしょう。

そうなってくれば、私は看護婦の問題等も自然に解消するであろうと思います。現在、多くの患者がこなれば経営が成り立たないということを考えている医者はないと思います。現在の医者は多くの病人を扱ってもその治療技術代というものは本当に低額でございます。そしてむしろ薬代というようなことでもって、それだけを取っておるということで健康保険の赤字解消というのは薬代でふくらんでおるといふことで、本当の治療費という問題が大きくかさんでおるといふことは考えられないわけでございます。私は、むしろそうした面の医者の技術料というんですか、診察

料そういうものをもっと単価を上げていって、そうして医者の方の生活圏の確保そして予防行政、そうして一般の研究機関の充実そういうものを私は強化していけば、私は健全な医療財政、健康保険財政は確立され、そうして私はこの健康保険会計の赤字、一般会計からの繰り入れいろいろなもの済まずに私はできるのじゃないかというふうに思うわけでございますけれども、こうした点についてどのようにお考えになるのか、お伺いしたいわけでございます。二番目には、家庭教育の充実と体力づくりの施策についてお伺いしたいわけでございます。

三月議会においてランドセルの廃止に伴うところの方針をいろいろ聞いたわけでございます。これについてはその後私も調査しました。その調査によりますと、ほとんど三月の時点においてはランドセルの廃止というものは、市のほうから一方的な施策であったということを私は確かめたわけでございます。父兄、学校の先生方、現場の人たちがあまりに認識しておらなかった。

しかしながら、四月に入って入学の段階において確かに市の教育委員会のほうと現場のそうした人たちの歩み寄りによって話し合いというものが進んでいったことは確かに認められるところでございます。

しかしながら、私は話し合いができたからといって、この問題は解決されていく問題だというふうには認識されなかったわけでございます。

現に、北条小学校等においては手さげかばんを持って通学しておるところの一年生、最近ではショルダーバックを統一して買おうじゃないかという運動が出てきた。前にもうカバンを買ったか



らシヨルダーバックに統一することは困るということが現実にはP  
TAの中で論議されておるじゃございませんか。

そうして、小学校一年生以外の生徒に対しては多くの宿題が出て  
おります。現実には、ランドセルの廃止とともに家庭にと学用品  
その他は一切持ち帰りをしないという方向であるにかかわらず、  
その学用品の持ち帰りの量、それは依然として減ってはおりませ  
ん。むしろ多くなる傾向があっても、減らない傾向があるわけ  
でございますけれども、これらの矛盾についてはどのようにお考え  
になるのか。

さらには、有線教育におきますところの家庭教育に対する影響  
はどうなのでしょう。むしろ人間疎外の欠陥というものがかも  
し出されているのではないかと、いうふうに考えられます。

三月の中旬の朝日新聞の中にも、東京の放送センター教育を行  
なっている学校の校長先生の談話が出ておりました。有線放送に  
よって確かに意義というものはあらわれておる。しかしながら、  
残念ながら子供の人間性、そういうものは失われておると、この  
点は率直に認めざるを得ない。しかしながら、東京においては塾  
というものがあって、塾においてその疎外された人間性というも  
のについてかばってくれるのもって、ある程度は補いはできて  
おりますという談話が出ておりました。

館山はそのように学園都市ではございません。塾の普及という  
ものも十分じゃございません。そういう中においてはこうしたと  
ころの有線教育のもたらすところの人間教育、そういうものがど  
うなるのか。この点についてお伺いしたいわけでございます。

次に、時間がございませんので、モーターの規制と暴力問題に

ついてお伺いしたいわけでございます。

最近、市内には非常に多くのモーターの建設がめだっております。  
国においても、県においてもモーターの実態を見たときに、  
決して好ましいものじゃない。青少年の健全育成、環境の問題、  
その他を含んでいろいろと規制の方向に向っております。館山市  
においてはこれらの問題をどのようにしておるのか。お伺いした  
いわけでございます。

さらに、最近の新聞紙上、きょうもそうでございますけれども、  
毎日のように暴力事件が報道されております。特に最近館山市は  
非常に多く暴力事件が発生しているように伺われます。観光都市  
は推進していく中についてはやむを得ないことかもしれませんけ  
ども、この点どのように考えておるか。

新聞紙上については暴力団の事務所が二カ所あって、その縄  
張り争いが行なわれておるといふことも公然となされておるよう  
な状況でございます。こうしたことがさらに進んでいくような傾  
向にあるわけでございますけれども、私はやはり文化的福祉都市  
である市において、このようなことが毎日新聞紙上に出るような  
ことであったんではなげかわしいことだというふうに思うわけで  
ございます。この対策に欠ける点がかなりあるのではないかと思  
うわけでございますけれども、この点についてお伺いしたいわけで  
あります。

以上、時間もまいりましたので、三点について御質問申し上げ  
まして、市の御答弁をいただきたいと思っております。

(市長本問 藤君登壇)

○市長(本問 藤君) 辻田議員さんの御質問に対しましてお答え



を申し上げたいと存じます。

医療体制の現状と地方自治の果たす役割については、きわめてむずかしい問題が多くあることは御案内のとおりであります。

経済の急激な上昇に伴うひずみはあらゆる分野に見られ、なかんずく公害を契機として人命尊重への政策転換が国をあげて叫ばれておる。今こそ、健康の価値観をかえて対処せざるを得ないと思うわけであります。そのような基本的な考え方でお尋ねの件については対処してまいりたいと考えております。

お尋ねの第一点でございますが、当市の医療機関の数でございますが、県平均をかなり上回っており、受診率においても県下二十六市平均をかなり下回っており、他との比較論になります。三時間待って三分間診療といわれておる中では、まあまあの現状ではないかと考えておるわけでございますが、お尋ねの第二点医療の無料化と赤字についてでございますが、老人医療についてはおおせのとおりであります。制度実施にあたってそのような主張をしたいわけでございますが、現行の施行となつたわけでございます。

国は、国保財政の老人医療費無料化のはねかえりとして本年度三十四億を計上したわけでございますが、法の改正により影響を受けるすべてのものは国で負担とすべきであるといった考え方から、機会あるごとにこれを強く要請をしていきたいと考えております。

なお、乳幼児医療については医療機関との話し合いが十分でないとのことでございますが、三月議会において御了承いただいたこともございますが、十月実施予定にまだ間がございますので、

十分お医者さんと話し合っていきたいと考えておるわけでございます。

医療行政の立ち遅れはないかとのことでございますが、本市は医師会のきわめて強い御協力があり、地域保健調査会が設立されて、これが中心となって地域医療の推進についてはかなりの成果があがっておりますことでございます。医師会との話し合いにつきましてはこれからも継続して、円満な医療行政をやってまいりたいと考えておる次第でございます。

それから、家庭教育の充実と、体力づくりの施策は具体的にほんなものかという御質問でございますが、学用品を学校に置く体制、基本的な学習用具を無償給付すること等により徐々にあります。父兄の自覚をうながし、家庭教育の充実の方向に向いつつあるものと思われまします。

現在、学校では学習指導の方法特に宿題のあり方についても検討を進められ、教育有線放送の活用、市教育研究会の研修活動、地区別の家庭教育学級の開設等によって、従来学校の延長であった家庭教育から、子供の体育づくりの本来の家庭教育のあり方に進んでおることは見られてきました。

くわしいことにつきましては、具体的なことにつきましては教育長のほうからその点は御回答申し上げたいと存じます。

それから、近頃市内にモーターの建設がめだっているが、モーターの内容の現実から青少年の健全育成と、健全な観光の開発の面から規制の意向はないかとの質問でございますが、モーター営業の規則については風俗営業取締法により、都道府県の条例で定めておる地域においては営業できないと規定されており、本年四



月一日より千葉県条例の風俗営業取締法施行条例の一部改正により、県下全域がその地域に指定され、今後一切モーテルとしての新築は認めない。現存する施設についても来年の三月三十一日までその構造、設備を改良しなければ営業ができないということになっておるわけでございますが、当市におきましても昨年警察署長がまいりまして、このことについてどうかというから、館山市としてはモーテルを建てることについては反対だということを署長に申し上げましたらば、警察でもそうだということで昨年末でしたか、あつたわけで、そんなようなことでございますが、これについては建築申請とか、いろんな場合に事前に調査ができると存じますので、県の建築課あるいは警察とも連絡をしてそういうことのないようにつとめてまいりたいと存するわけでございます。

それから、暴力の追放については、安全と平和のために特に留意しなければならぬ問題であると思います。警察当局の見解によりますと、市内にも二、三カ所の暴力団系といわれる組織があるようでありますが、幸いにも市内においては大した問題も起こらないわけでございますが、これは警察の監視等によりまして市民に不安のかからないように指導いたしまして、対処いたしたいと考えておる次第でございます。

以上、簡単にございますが、御答弁申し上げます。あとは課長、教育長のほうから申し上げます。

保健課長（網島憲治君） 若干補足を申し上げます。

第一点の医療体制と行政の確立についての医療機関の受け入れが飽和状態、こういうふうなことでございますけれども、特に現

在の医療機関の受け入れについては全国至るところでそういうふうな現象があるわけでございますけれども、千葉県におきます人口十萬単位の医師は、千葉県では県全体で八九・八、館山市の場合一〇〇・九、歯科医師が千葉県が三二・三、館山市三七・二、施設におきましては人口十萬単位で千葉県病院が七・三、館山市一九・五、診療所千葉県四八・八、館山市一〇・二、歯科二五・三、館山市三七・二、病床数でいきますと千葉県八〇〇・五、館山市一、六九五・二、診療所千葉県一五九・四、館山市二六八・九、受診率でいきますと千葉県県下二十六市では四四九・四四、館山市の場合四三九七このような数字でございますけれども、これはこれがいいというわけじゃございませんけれども、現在の状況の中では館山市は他と比較しまして、いわゆる恵まれているといえますが、そういうふうなことで私どものほうかんがえております。

それから、健康保険の赤字との関係でございますけれども、先ほど市長が申し上げましたように、昨年度の赤字の関係はまだまだしくは調査してございませぬけれども、老人医療の関係がかなり作用しているというふうに考えております。

それで、先ほど市長が申し上げましたように、老人医療の無料化のときに、私どもはその老人医療については保険のうわのせでなくて、老人独自のものをつくってほしいということを要望したわけでございます。それが現行のような施行になつたわけでございますけれども、そういったしますと、それによるはねかえりについては全部国が持てという主張をしているわけでございます。つい先日にもそのような主張をしてまいっております。ちなみに本年



度三十四億円が計上されておりますが、この配分それからその根拠等については現在のところわかっておりません。

それから、医療行政の立ち遅れということでございますけれども、これは非常に問題としては問題が大きゅうございますし、現在の地方自治体特に五、六万の都市におきます医療行政というのは、率直にいいまして立ち遅れざるを得ない。こういうふうに考えます。

そして、この中にございますものでは、これは問題によっては非常にわれわれのレベルではどうにもならない問題もあるわけでございますけれども、館山市におきましては緊急医療体制、これは現在のところ四つの病院が非常に御苦労なさってやっていたいております、今のところはスムーズにいったるようでございます。

しかしながら、この体制はどうしても組織としては持っていなければならぬ。このように考えます。そうしますと、一館山市でそういう組織的に緊急医療体制を持つということは非常に効率的ではないと思います。

また、こういうものについては、当然少なくとも県の段階でブロックごとにそういうものは措置すべきが本筋だろうと思っております。そういう意味では幸い広域行政圏というのがあるわけでございますので、少なくとも県南十八万の住民の要望として当然県はこれをやっていただけのような方向へとわれわれ努力しているわけでございますけれども、今回県で策定をいたしました四次五カ年計画にも要望は出してございます。しかしながらそれだけでこれと足りるというわけではございませんので、そういう面での努力

はこれからも続けていきたいと思えます。

看護婦の確保でございますけれども、御案内のように、市が看護婦学校経営ということまでは考えておりませんが、医師会を通じまして、その行政については補助金という形で努力をしているわけでございます。

それから、学校の健康診断あるいは成人の健康診断、そういうものが一連的に活用をされないかということでございますが、確かににおおせのとおりにこれからの医療のあり方というものは、そういう方向で進んでいかなければならないと思います。現に、北欧のほうではそういう体制を取っておるところがございます。

そこで、現在私どものほうで地域保健調査会というものをつくってこれからの地方自治体の医療行政について取り上げていく問題を毎年事業化し、現在もやってもう五年になりますか、やっておりますけれども、その結果が今、行なっておりますがん検診の一つの方法、これは現在の辻田議員のおっしゃる健康管理体制の一部分でございます。少なくとも胃についての管理体制はできた。こういうふうに考えております。

それから、血圧、検便、眼底検査、心電図、コレステロールこれは循環器系統の当然行なわなければならないものでございますけれども、現在小型ではございますけれどもやっております。昨年五百人、今年度千人、これは非常に対象といたしますと数が多うございます。これを全市民に及ぼすとなりますと、かなりの規模と、かなりの人員と、これはどうしてもコンピュータでなければ処理ができません。それを現在のところではホールソートでやっておりますが、そのまましコンピュータが導入されると



すれば、そのまま移行できるような仕組みは考えております。

したがって、それらは諸般の事情をふまえて、やがてはそういう時代を考えながらわれわれは努力していく。こういうふうに考えております。以上でございます。

〇教育長（安田豊作君） 家庭教育の充実と体力づくりの施策の具體的なものということでございまして、しかも四月から二カ月間の成果に触れるものも多分にあります。むしろ教育委員会より学校自体にまかされている問題あるいは校長の経営権に属する問題でありますので、そう細かく触れられないかもしれませんが、お答えいたします。

第一の学用品の学校常置体制によって、一年生の持ちものの選定に混乱があったじゃないかという御指摘でございます。確かにそういう時期が一時ありました。しかし、この問題は学校というよりは、さらに学校と家庭との話し合いの中で家庭自体が考えていくべき問題であるということとまどった点があります。

しかし、こういう問題が報告されております。学校への学用品の持ち運びについて一体どういふものがあるかみなで考えようということ、一が、入れものとして何がよいか。たとえば、手さげがいいか、ショルダーバックがいいか、併用ショルダーがいいか、ランドセルがいいか、ナップザックがいいかというふうな幾つかの品物をあげまして、それに番号をつけて採点をする。あるいは交通安全の点からは何がよいか。耐久性からは何がよいか。また、値段の点からは何がよい。子供の趣味といいますか、子供がどういふものを好むかという点から。親の見え目からは何が子

供に持たせてやりたいかという点。それから置く場所、学校に持って来た場合に置く場所、その他七つか、八つの観点をきめまして、全部の一年生の父兄で採点しました結果、肩かけのバックがよいということを含めた学校があります。

そういうことは一例でございますけれども、現在一年生が持ち運びに使っておるものとしては一年生六百三十三名のうち四百八十二が肩かけバックであります。七六％。それから手さげバックが百二十三、一九％、リュックが二十三、〇・四％、ランドセル一あります。

さっき、御指摘の北条小学校は手さげバックを買ったのに肩かけがいいということにきまつたということで混乱があるじゃないかという御指摘でございますが、現在北条小学校では百三十七名が肩かけかばんで、合わせて五十五の手さげバックを買った子供さんはそれを使用しております。

そういうことで、確かに御指摘のように混乱らしいものがありましたけれども、こういうことがあって親たちとして、あるいは学校側としてこれが本当の子供たちのためになるものだという納得の上できめられて、現在一年生の教育はスムーズに進められております。

それから、宿題の件でございますけれども、むしろ宿題がふえて家庭持ち帰りのものがふえてるんじゃないか、こういう御指摘でございますが、市長の答弁にありましたように、大きな今の教育の考え方が調和の取れた人間教育ということでございまして、むしろ従来いわれたところの宿題は減らなければいけない傾向にあることは御指摘のとおりだと思います。そういう方向で私ども



は指導もしていきいたいと思っておりますけれども、現実にはまだ宿題はあるようです。

その宿題についてでございますけれども、ここに報告されたものについては、一年生の場合は一週間に一べん国語の教科書とノートを持ち帰る。その次の週は算数の教科書とノートを持ち帰る。その程度の宿題と、従来宿題といわれたようなものは、そういうことで課されているようです。

これは、その次の人間疎外の問題とやや関連したお答えになるかもしれませんが、このことによって要するにランドセルじゃなくて、学校常置体制によって宿題がそういう形で徐々ではありますけれども、考えられることによって家庭での子供に対する指導のあり方が徐々ではありますけれども、かわっている事実があります。

それと、ここに報告されておりますが、これもほんの一例でございますけれども、子供が家に帰ると絵を書くとか、物をつくるとか、そういうことを好んでやっていると。算数の勉強をするらしく、いそがしいからそばで数字をきれいに書きなさいということでは、子供はなぜですかというようなことで問い返してくる。それよりも子供の様子を見ると、最近遠くの友だちのところ遊びに行くようになったと、どこに行ったということを帰ってきて聞くと、絵のようなもの、絵地図、私が見てもわかりませんけれども、地図のようなものを書いてここに持って来ますよといふことを答えるということです。

これは、親からの受け持ちへの手紙でございますけれども、この中で私たちは大事にしていきたいことは、子供は友だちがふえ

てきた。要するに仲間づくりができてきはじめたということ。もう一つは、そういう遊びの中で、遊びの中から地図の書き方を覚えていく。そうして親はそういうものに気づいてそれを大事に育てていきたい。こういう姿勢で先生への手紙を書いているわけでございます。

そういうことから徐々ではありますけれども、親の姿勢が、子供に対する姿勢が徐々ではあります、かわってきている。同時に子供たちは自分でやるんだという姿勢で自主的な行動が伸びてきております。

そういう親たちの姿勢に対して、これもこの報告の中にございますけれども、身体検査のときに子供の洋服の脱いだり着たりが自分で完全に全部の子供ができました。こういうことでございます。

そうしたことが、親たちと子供の自主的な態度によってだんだん伸びつつある。これが初めにおいて少し混乱がありましたけれども、私たちが予期した方向に歩みつつあるんだという芽ばえを私は感じて喜んでおる次第でございます。

それから、有線放送が人間疎外になるんじゃないかという御指摘、これは確かに私はこういう問題について方々から聞いております。自主的に放送を使って教育をした経験、それから現在行なわれておる様子を見まして、三つの点からむしろそういうことは杞憂であるというような考え方をしておるわけでございます。

一つは、放送を使うことによって指導の能率があり、教師の準備する時間が減る。そのために、子供についていろいろと遊んだりなんかする。そういう子供に一人一人めんどろをみる時間が



前よりふえていっているということ。

それから、もう一つの点は、この有線放送は単なる知的内容のものだけを流そうとしているわけじゃございませんで、学校の生活の様子を交互に知り合う、よその学校ではこうやっておると、この学校ではこうやっておると、方々の学校の様子を紹介し合うという番組を多分に入れております。それは児童会、生徒会という子供自体が計画し、自主的活動しておる内容を収録して流しておりますから、そういう内容からはむしろ人間疎外というより、人間的な親密度といえますか、人間関係というようなものが多分に内容的に子供の心の中に入っていくものじゃないか。

それから、三点目は、放送というものは先生が子供に相對して教え込むという姿勢ではないわけです。放送というものは先生も子供も並んで一緒に見ている。こういう姿勢は子供と先生との親密度というのは、先生は前もって勉強しておいて子供に教え込むといういき方と違って、子供と先生との親密度、人間関係を深めていくものだという、こういうふうに考えて、むしろ有線放送は人間疎外の欠陥になっているんじゃないかというのですが、そういうことはまずないじゃないかということを私は感じております。

それから、四の北条小のシステム教育の成果を他校に普及させる意図はないかということでございますが、これはシステム教育というのが、一つは、ああいう組織化されたところの機械をよそにつくる意味はないか。この点は三月議会ですか、予算のときですか、申し上げたと思いますが、その一つとして有線放送を市内の全学校に設置したということでございます。

それから、もう一つは、それでもまだ足りない面は個々の個別学習の器具は、これは新設の学校へ設置していく。中学校のほうへはLHの設備をしていく。こういうことで北条小学校に設置してあるところの組織されたところの機械は今すぐということじゃないんですが、放送だけはしましたけれども、徐々にそういう方向で計画されております。

これは、機械だけじゃなくて、そういう人間がシステムを組むあるいは機械と人間がシステムを組む。そういう考えでの成果といえますか、そういう考えをよそにということになりますが、この問題はむしろ学校の校長の経営の考え方によりまして、この点は十分話し合いを進めておりますが、この六月二十七、八と北条小学校あるいは北条幼稚園が公開研究会を開きますが、こういう問題は他地区の先生方に公開するということもありますけれども市内の学校の先生方に十分見てもらうということも考えているわけでございます。そしていろいろの方法で全部がいいということはいきれないと思います。そのいい面は校長の考えに取り入れていただく。こういう考えで現在進めておるつもりでございます。以上、申し上げますお答えにかえさせていただきます。

○九番（辻田 実君） まず、第一点の医療行政について再質問いたしたいと思うわけでございます。

ただいまの答弁で、ほぼそういう私が質問した真意については了承の方向で答弁がございましたので、私は一点だけについてお伺いしたいと思います。

保健調査会が設けられて地域のこういった医療行政についてかなり総合的にやっておるということでございますけれども、保健



調査会の構成メンバーはどういう人たちなのか。そうして予算について見ますと、非常に微々たる予算でございます。私は健康保険会計に対する一千万とか、二千万というこういう額から見ると全く問題にならぬじゃないかというように感じがいたします。

そうして、健康診断の血圧、検便、眼底検査、心電図、コレステロールこういうようなもの等については西岬と神余ですか、これは中心的にやられて他の地域的に普及ができてないという、これはいいということはすでに保健調査会等については結論が出ておるようでございます。あと予算の關係、行政の二つの關係そういうような問題でもって、こうした問題がすでに昨年、一昨年からやられておるにもかかわらずできておらない。こういうふうな現状ではないかというふうに伺っておるわけでございますけれども、この点はどうなのか。

そうして、私は場合によっては保健調査会というものをかなりの広い範囲で構成して、勤労者も入れるし、それから農村の方も入れるし、実際には、私は健康保険会計という大きな赤字を市がしょっているわけでございますけれども、これとの関連について根本的に考えていくことはできないか。

私は、胃のガン検診については相当の実績をおさめて、私は非常に高く評価しておるわけでございまして、少なくとも胃のガン検診以上にやはりこれを普及させるということを取れないか。

そのためには、この保健調査会の予算十萬から今度三十萬ですか、という程度でございますが、これについては相当何百万という形、場合によっては調査会に委託しまして、先般競輪ですか、競馬ですか、検診車ですか、胃ガンの検診車をもらって、そして

あれができたわけでございますけれども、こうしたところの施設に對してもかなり市が補助しながらこういう検査ですか、そういうものも保健調査会に委託しながらやっていくという方向は取れないかどうか。

そのことが、先ほど来出ておりますところの医療体制さらには看護婦の問題、その他の問題を自然に解消していく方向になるんじゃないかというふうに思われるわけでございますけれども、私は日本でもかなり進んだところの医療制度の無償化と関連して、ややこうしたところの市の保険行政の面について立ち遅れがあるような気がするわけでございます。

私は、この保健調査会の現状のままではまだ不十分のような感じがいたしますけれども、しかしながら現在の体制は、この保健調査会が果しておるところのいろんな予防、検査の成果というものはかなり高いものがあるように見ているわけでございまして、私はこの際、この調査会を強化して、そうして予算的にも相当なものを補助することによって、私はむしろ一般会計から健康保険会計に繰り入れが相当減るんじゃないかという見通しを立てておりますけれども、こういう方向で取り組む意思がないかどうか。この点について一点だけ御質問申し上げたいと思います。

○保健課長（網島憲治君） お答えいたします。

保健調査会のメンバーは各種団体の長あるいは保健所、医師会長、その他各種団体の長、それから議会の文教民生委員会の委員長、小中学校の代表、市役所の衛生關係の課長、こんなようなもので構成されております。

それから、保健調査会の予算が少ないというお話してございま



すけれども、確かにやはりこれは活動と伴って予算を徐々にふやしていくという方向で考えております。

それで、現在手がけております循環器の管理体制の確立というのは実際のことを申し上げまして、まだ自信がございません。実施体制の中でこれを大々的に取り上げてやれる自信がないんです。いいということはわかっておりますけれども、現在千人をこなすことで現在の体制では千人程度がやっとという状態でございます。

もう一つは、それに伴いまして、先生方にももちろん御協力をいただくことになりますが、そのへんがまだはっきりと組み込まれておりませんので、確かにおおせのとおり、そういうものを強化してそれがやがて国民健康保険の医療費の減につながるものが最も理想的であるわけでございまして、私どもそれについては努力いたしているつもりでございますけれども、なかなか実施の体制の中ではむずかしい問題があるわけでございまして、その点で将来は保健調査会を徐々に伸ばしていきたい。こういうふうに考えております。

〇九番（辻田 実君） その点については、そういう方向でお願いいたしたいと思えます。

むしろ、私は老人医療の七十歳以上さらに幼児の五歳未満の医療無料化というのは、館山市程度の財政規模そういうところから見ると、むしろこっちのほうがたいへんのような気がいたしました。そういう中で、この今いったような循環器系統の検査、このほうがむしろ館山の予算規模の中からやりやすいのではないかという判断でございますが、判断の相違が若干あるようでございしますが、私は市政の方向を消費的な面からなおすということだけで

なくて、予防、保健衛生こういうもののほうに投資することによって、消費的なものを減らしていく形を取るべきだ。

かなり、保健調査会の神余、西岬の結果等を見ますと、かなり見通しが出てきておるような気がするわけです。

ですから、私はここでもって貧しい財政の中で思いつてそっちへの転換がきておるのではないかということを、先般保健調査会に出ましたところの一覧表等を分析した結果、そういうふうに見たわけでございますし、市内の有力なお医者さんにも四、五人会いまして聞いて見ましたら、そういう方向が妥当だということ現場でもってはっきりいっておるわけでございます。そういうものに疑問を持つ医療機関の人、代表者の一人一人もいませんでした。

ですから、そこらへんはひとつ下からの意向もくみ上げていたきたい。アイデア市政というのは、市長が打ち出したものだけを下に押しつけるということじゃなくて、下からの問題を市政の中に入れていくという形、それが館山市が一番基本になっておるところの一般会計から国民健康保険への何千万の繰り入れということが、こういうことが根本的に解消できるということであれば私はこれは必ずしもそういうかどうかということは具体的にはわかりませんが、そういう方向にいくということはかなり出ているというふうに感じられますので、今御答弁になった方向で進んでいただきたいたいということを要望いたしたいと思います。

教育問題でございますけれども、確かに三月の議会等を聞いておりまして、教育長の答弁でありますと、非常に家庭教育を充実させて、そして教育を総合的に発展させていくんだということを



いわれておって、ここで聞いておると、私も確かにそうだなという形でもってうなずける面があるわけです。

しかしながら、私はPTAとか、さらには学校の教師こういう人に聞いてみると、そういう人からいろんな意見が私のところに来ます。そういうものを総合しますと、必ずしも一致していないんです。相当な隔たりがあるわけです。

たとえば、放送教育の問題にしても、今いったような利点があるということは確かに放送教育そのものは全部を否定しませんが、でも、しかしそこにある根本的な人間疎外の面というものはもうどうにもならない問題だということが、つい四、五日前の朝日新聞ですか、テレビと教育についての全国何とか会という教育分科会というものの答申書の全貌が出ておりましたけども、あれを見ていってもそういう点はどうにもならないのだ。今後テレビの問題、テレビ公害という表現ですが、テレビ公害と教育の問題をどうしようかというテーマで出ておりました。

そういうところを見ますと、館山の有線テレビと矛盾しているような感じがありますが、実際の先生方に聞いてみると、なかなかむずかしいんですよ。あれをやってみると、教育にむしろ混乱があって生かしきれないという声が圧倒的に強い。これはどうも対決してどうこうという問題じゃないかと思えますけども、私のところに来ているのは相矛盾してきているのが現実でございます。

家庭教育の実際についても、非常に市の方針としてはランドセルの廃止、それに伴うところの家庭教育の方針というものは、私はわかるわけでございますけども、実際に家庭の状況はそういう

方向に進んでいないわけです。共かせぎの夫婦が多くなってきた。それから家族構成が核家庭になっておる。市の統計を見ていっても毎年人口は減っておるけども、世帯数はうなぎ上りにふえているという現象から見ても、館山市の家庭は核化しているということとはわかるわけです。

その中においては、父親と母親しかいない共かせぎ家庭がかなりふえてきておるという状況の中でもって、家庭の中で教育する人がいない。昔のように年寄りがいて、おじいさん、おばあさんがいてどうこうという問題じゃなくなってきたおる。そういうものがむしろ家庭教育そのものをなかなか円滑に生かせない状況が多い。

私も子供がいますからPTAに行きます。出席率は半分以下です。それでもうちのほうの学校は出席率がいいほうですよ。ほかではなかなか仕事があつて集まらないですよ。先日、私は夜集まったかどうかというのを盛んに提唱しましたわけですけども、私は昨年中国に行ったときに、中国の学校のPTAというのは全部夜です。日本は昼間やるというたら、昼間よく集まりますね。仕事に出ておる人は昼間やったら困るでしょうというようなことをいわれましたけども、むしろは夜PTAというものはやることになっておるそうでした。日本では学校の先生がどうこうということをいいますけども、やはり本当からいえば夜やってこそ本当のPTAの集まりがよくなるのじゃないかというふうに思うわけでございますが、現実には今の学校の管理体制の中で時間外手当の問題、その他考慮して夜PTAやることは困難な状態である。そういう中をもって、PTAは昼間開かれる。集まってくる人た



ちはほとんどきまっていた顔ふれ。ごく学校のPTAの数の上から少数である。その少数をもって、私は全体的な教育の問題をここで論じて、そうして成果が進んでおるといふ形が私は館山市の教育の基本であるところの教育の機会均等、平等ということが決してそういう方向じゃないじゃないかというふうに受けとめられていくわけです。

そうして、中教審議会の報告を見ましても、塾の教育がこれからますます発展するだろうということがいわれております。私も学生時代に家庭教師等も若干やった経験がありますけれども、学校では四十人近くの生徒を教えておりますけれども、しかしながら家庭教師はワンツーマンです。相対です。その塾に行く場合には、英語がうちの子供はできないから、英語を少し学力を上げたいというところで英語の塾にやる。

その場合に、英語を直接教えるのではなくて、塾だとか家庭教師の場合、子供と相対で接して友人関係になって、この子供はなんで英語がきらいか、好きになるようなことを見出しながら、えさを与えながらその子供を英語ができるようにさしていく。塾や家庭教師は通信簿をつけません。テストもあります。そして本当の実力だけをつけます。実力がつかない塾なり、家庭教師は失格でございます。そこでついた実力というものは、学校に行ってもどこに行っても通用できるところの学力です。

ですから、今全国的に塾というものは、今の学校教育の欠陥これをとらえて人間教育、塾でなければ人間教育ができないというようなことがテレビの討論会なり、新聞紙上に公開されておる。

そういう欠陥が館山市においても教育テレビの有線放送の実施

とか、さらにはランドセルの廃止という形の中でもってそういうものを進めていくんだという方向がむしろ逆になっておる。そして塾なり、家庭教師の体制ができてない館山市等においてはむしろ学校教育の中において学力の充実、そういうものをはかる必要があるのじゃないかというように思うんですけども、一方の理想をむしろ現場におろしていくというギャップがあるように感じられるわけでございますけれども、そういう面は、私は明らかに今いろいろな具体的問題がありましたけれども、市の教育行政と、そして現場の教師と、そして当事者であるところの子供、家庭というものが、私は決して一体となって、そこからの要求が一つとなって、そして教育が進められるというふうに思わない。

むしろ、上からの施策、上からの方針というものが上から下にという形の中でその話し合いが進められて、努力は認めます。そういう機会はつくられておるけれども、しかしそこにはどうにもならない溝というものがかなりあるように伺えるわけです。

これが、ランドセルの問題、有線教育の問題、宿題の問題、北条小学校のシステム教育の問題、こういう面にあらわれておるのじゃないか。こういう点について、私は今後現場のそういう要望というんですか、そういうものをやはりくみ上げていただきたいことを要望したいわけでございます。

そういう点をやはり教育の姿勢として徐々にかえていただきたいというふうに思うわけでございます。

私は、解決するために、この問題について何度も質問をしていきたいというふうに私は考えるわけであります。決してそういう面では、私はうまくいってないというふうに考えるからでございます。



ます。

それから、最後のモーターの規制と暴力追放の問題についてでございますけれども、どうしても社会が観光、そういう面に進んでいく場合には、こうした問題というのはどうしても起こりがちです。市長さん、特にこの問題については御答弁願いたいと思いますけれども、それは私はある程度必然的な現象として、どここの観光地に行っても暴力事件だとか、暴力ざたというのはたくさんあります。あるから、それを認めろというわけには私はいかないと思います。

私は、文化都市であるところの館山においてはそういうものが絶対なくなるような形を取っていただきたい。そういう方向で進んでもらいたい。

きょうの新聞についても一面の見出しが暴力事件というような形の地方新聞出ております。二、三日前においても、なんか眼をつけたから、目がすれ違ったからどうのこうのというところで、漁民の方が暴行事件で入院したとか、しないとかいう問題、私はここずっと最近の新聞を見ても毎日何かの傷害事件、暴力事件というものが新聞に出ておるわけでございます。こういうことは非常に困った問題だと思っております。

私どもは、館山市においては公明選挙の推進都市宣言さらには交通安全都市宣言をしておるわけでございます。こちらへんでもって観光地としてさらに発展させていくについては、館山市にきたら、館山市については決して暴行事件だとか、傷害事件とか、そういうものがないように一生懸命やっておりますよ。そういうような記事が館山の中においてはもうほとんどありませんよ。あ

っても過発的に一年に一ぺんか、二へんでほとんど絶滅状態にあるという体制をつくっていくべきではないか。

そのことが、やはり平和な社会、民主的な社会、観光開発を進めていく都市においてはそういうことを特にやはり行政として取り上げべきではないか。

そのための市民への啓蒙思想というものを深めなければならぬ。ただ単に、警察にまかしてあるから、きょうの新聞等については警察においては、暴力については取り締まりを強化していくんだという方針できておるといいながら、毎日のように新聞に出ておるといふことについては非常になげかわしいわけでございます。

ここでもって、そういう意味において、私は観光開発をしていく中においては、当然館山にすれば暴力だとか、飲んで、東京あたり行くとビール一ぱい飲んで何万円取られてどうこうというようなことが週刊紙だとか、新聞に出ております。そういうようなことは館山にはないと思いますけれども、これからのそういうような状況というのは出てくることもあるわけでございます。

そういうような俗にいわれるところの暴力飲食店とか、そういうようなものがこれからいなくなるに、やっぱりこのいろんな飲食業者の方たちの連携、そして館山にすれば安心して観光に浴することができる。そういう暴力だとか、そういうことは絶対あり得ないんだ。ほかから暴力的要素を持った人がきても、館山に行くと、やっぱり暴力ということはなかなかできないんだ。あそこの町はそういうところなんだということが観光の大きなキャッチフレーズにもなるし、キャンペーンにもなるのじゃないかというふ



うに伺われるわけでございまして、やはりそういうことについて暴力追放と暴力追放宣言都市というんですか、そういうような方向でひとつ努力していただきたい。

交通と暴力と公明選挙この三つの柱を立てていただきたいことを私はここでもってお願いしたいわけでございますけれども、こうした方向についてはどのようにお考えになるか。御答弁いただきます。

○市長（本間 譲君） 辻田議員さんのお話しごもっともでございます。まして、われわれはそういう方向でバー協会とか、あるいは旅館業者とか、ああいう接客業者に対してうまくこれを指導して、成果を上げるようにいたしたいと考えております。

○議長（吉田勇治郎君） 九番議員の質問を終わります。

暫時休憩いたします。

午後二時二十五分 休 憩

午後二時四十七分 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次、石井武敏君。

（八番議員石井武敏君登壇） （拍手）

○八番（石井武敏君） 私は、通告してございますように、し尿汲み取り問題、それから公害問題について、この二点について当局の所信を伺いたいと思います。

やはり、し尿汲み取り問題は、これは市民の生活に最も密着している問題であり、切実な問題である。このような観点から私は今回の通告質問に取り上げた次第でございます。

この問題につきましては、るる議会において今までいろんな観

点から論じられておりますので、重複する点は省いていきたい。しかし、三月の定例会あるいは全員協議会等の動きもありましたので、なおかつその後の方向性あるいはその後の市としてのどのような手を打たれたか。こういう点に立って御質問したいと思っております。

三月の定例議会におきまして、安西議員からも質問があり、その際の市長の答弁は、し尿汲み取り問題で市民に著しく迷惑をかけているならば、そのままにして置くわけにはいかない。しかし業者を複数にすれば必ず改善されるとは思わない。独占にはいろんな弊害があるので、これを機会に調査したいと述べております。また、担当課長からは、なお一そう業者への指導、監督の強化をしていくというように強調されているわけです。

これらの一連のし尿汲み取り問題への関心と盛り上りは、その後に関かれた全員協議会で再びまた論じられたわけです。そして同時に市議会の意向としてし尿汲み取りを市営化に持っていくというような意思がまとめられて市長に提出されたわけです。し尿汲み取りの市営化というのは全市民の非常に強い要望であると思います。これらの市民の強い切実な願いを実現すべく、市議会は市長に要望書を提出したわけですけれども、これに対して市当局はいかなる方針で対処されるのか。この点をお伺いしたいと思います。

次に、公害問題ですが、最近特にスポーツをあてられて各所で論じられております。館山市の公害防止条例の第一条を見ましても、その目的には「市民の健康を保護するとともに快適な生活環境を保全することを目的とする。」というようにたかくその目



的が掲げられております。

そして、昭和四十七年度において市当局に寄せられた公害の苦情の中では畜舎、浄化槽、家庭排水などの原因による水質汚染の対策これらが非常に多いわけですが、これをどのような方法で解決の手を打たれたか。

また、紛じんあるいはそれらの原因の大気汚染の問題、あるいは悪臭、騒音の公害問題についてどのような方法で取り組むのかお聞かせ願いたいと思います。

以上、し尿汲み取り問題と公害問題を御質問いたします。

(市長本問 議員登壇)

○市長(本問 議員) 石井議員さんの御質問に對しましてお答えを申し上げたいと存じます。

一番目は、し尿汲み取り問題でございますが、おおせのように市議会の全員協議会によって直営方式をとる要望が議長さんからまいりましたわけでございますが、私は段階を踏んで、これは最終には直営ということがいいと思いますが、現段階において相当衛生課のほうでも業者を呼んで、いろいろ皆さんからの御意見もいってありまして、最近にはあまり弊害が少ないじゃないかと思っておりますが、ただ、問題は料金の徴収問題をこの際改善すべきじゃないかと私は考えておるわけでございますが、今料金は別に徴収するということになっていきますけれども、その点がなかなか徹底しない面があるんじゃないかと思いますが、まず、原在の条例による請負業者が完全に条例に基づいてやってもらうことを督促してもらうことがまず第一段階で、その線でやっていきますけれども、その次に、料金徴収を市のほうでやっていったら

らば、こういふ考えをしております、これは検討してみようと思ひますが、そうしてだんだんやっていって苦情が出ないようになればいいですが、それでもなお苦情が出るというような場合には、直営というようなことを検討していかなければならぬと思ひますが、いずれにしても、直営にすることは私は理想だろうと思ひまして、この問題についてもこれから直営にするに ついての他市の状態やなんかも聞いて、それに対処する研究を進めてまいりたいと存じます。

それから、公害問題でございますが、昭和四十七年度の公害としては、申し立てを受けたものが六十四件でございます。これらの苦情については騒音とか、悪臭とかそれぞれ苦情がございましたが、そのつど解決を大体しておるわけでございますが、畜舎、牛舎関係のこともございますが、このし尿については農地に還元するということと指導しておりますが、浄化施設の奨励、指導をやっておるわけでございますが、これは保健所といろいろ相談してやっておるわけでございますが、館山の海の汚染については今、どんだん川と汐入川には塩素滅菌を施して殺菌をしてやっておりますが、そのほか粉じんとかいろいろの問題があると思ひますが、これらについては、その原因等を確かめて対処しておるわけでございますが、これがやはり市民の方々に協力を得なければなかなか成果が上らないと思ひますが、河川の汚染等については特に市民の方々の理解をいただいてやってまいりたいと思ひわけでございますが、以上、簡単にございますが御回答申し上げます。

○八番(石井武敏君) し尿汲み取り問題ですけれども、まず市長



の答弁によりますと、市営化を理想としているという腹がまえを私は聞きましたけれども、それにはまず市営化といってもすぐには無理であるから、段階的にそれをやっしていきたいというような趣旨が述べられておりましたけれども、弊害も少なくなってきたと、いわゆる市民サービスという点において市民が少しづつでも満足されるような方向に進んでおるといふ見解に立たれておりますけれども、私たちとしては、真の解決は本当に住民に受け入れられる、住民の希望どおりの喜ばれるし尿汲み取りといえますか、そういう点から見ますと、やはり市営か、それに準ずるものでなければ、なかなか真の解決は無理ではないか。このように思うわけです。

ですから、やはり現金の徴収を市でやっていくという方法、これも確かに一段すぐれた方法だと思いますけれども、今、許可制度になっておりますけれども、委託制度に切りかえていくという方向についてはどうであるか。どのように考えますか。この点を一点伺いたいと思います。

それから、汲み取りに関しましてはもう一点、この前の三月の定例会でやはり質問があつて、そのときに、従量制につきましてはいろんな問題点がある。その問題点の中には第一にはかった量が正しいかどうか。あるいは第二点としては、請求書を家庭に渡しているかどうか。また、作業員が請求書を置かないというケースもあるということなので、これらに対しては業者を指導、監督していきたいという旨担当課長からお答えもあつたわけですが、その後市当局のほうで立ち会つて改善していくという答えがそのときあつたんですが、その後どういうようになっているか。その

報告を受けたいと思います。その二点をお願いしたいと思います。  
○助役（畠山 伝君） ただいま市長から申し上げましたとおりでございませうけれども、ただいま委託制度についてどうかといううなことでございますが、いろいろ委託経営、またいろいろ方式があるわけでございます。

市長もいろいろ他市の状況等も調査いたしましたして、いろいろ対処すべく検討も加えておる中で、そういうものも一応検討してまいりたい。検討すべき当然出てくる形であろうというふうに考えます。

○衛生課長（館石勘治君） 従量制のことでございますが、調査につきましては大体四事業所等の申し込み等がありましたですが、現在十五、六カ所の調査をやつたわけでございます。大体調査をやつた日には四月と五月にまたがりましてやつておりました、職員二名あるいは三名で一緒に乗つて行つたわけでございます。御承知のとおり、一つの目盛りは約二〇リットル入ることになつておりますので、それを確認しながらやつたのでございます。

それから、御質問の検針表と申しますか、請求書は必ずその自宅に置いてきた。こういうふうに立ち会つております。したがって、料金の計算等は誤まりないように確認されたわけでございます。以上でございます。

○八番（石井武敏君） 汲み取り問題は最終的には直営でなければならぬという方向性は明らかだと思ひますけれども、そのための準備ですか、腹がまえといひますか、それらに対してちよつと欠けるようなところがあるがもう一歩考えてもらひたい。もう一歩進めてもらひたいというような感じがするわけでございますので、そ



の点御検討願いたいと思います。

また、汲み取りの立ち会いの追跡調査でございますけれども、これは今後も続けていってもらいたいと思います。やはり日常生活に非常に密着している問題でありますし、毎月、毎月の問題でありますので、その点よろしくお願いしたいと思います。

公害問題につきましては、先ほど苦情処理のデータが、申し立て件数が六十四件あって、処理件数が六十一件あるというようなお答えも答弁の中にありましたけれども、やはりこれから国体も開かれますし、そういう点で非常にこれを積極的に進めていくべきときである。このように私は考えますが、処理件数が六十一件でほぼ申し立て件数に対しては解決されているかに答弁を聞いていますと受け取れますけれども、実際にはそうではないと思います。

データが私のところにあるので、ちょっと読みますけれども申し立て件数のうち実際解決したものが二十六件しかございません。一時的解決というのが二十一件、未解決が十四件でございす。ですから、まだまだこれらの問題は未処理のものが大部分でございすので、この点単なる数字的なマジックにとらわれますと、なんかほとんどが処理されているような感覚を受けますけれども、実際はそうではないと思います。

それから、もう一步掘り下げて一つの具体例を私は示したいと思うんですけれども、市内の正木地区の平久里川に夜になると牛のふん尿をバキュームかなんかで流していたということが発見されて新聞にのった。こういう実例もあるんですけれども、それに對してどういうふうな方法で解決をしたのか。その点をお伺いし

たいと思いますが、それは単なる警告に終わっているのじゃないかという懸念があるわけなんですよ。

○衛生課長（館石勸治君） ただいまの事件でございすが、五月二十三日に市民から通報がございまして、夜間バキューム車をもって平久里川の昭和橋の上流で牛のし尿を投棄したと、こういう連絡があったわけでございす。

翌日、課員に本人に出頭を命じさせるようにいたしまして、事情を聴取しましたところが、事実そのことを認めただけでございす。

それで、これは廃棄物処理及び清掃に関する法律と、こういう法律の条項に該当しますので、一応検討したのでございすが、第一回目のことでし、あるいは本人は非常に申しわけない。今後こういうようなことはしないからというようなあやまりがありましたので、始末書を徴しましてこの件は一応解決したわけでございます。

なお、この件につきましては、河川法にも低触してまいりますので、県の土木出張所のほうにも連絡してございす。以上でございす。

○八番（石井武敏君） 汲み取り問題につきましてもう一点確認しておきたいと思うんですけれども、汲み取りを市営化に持っていくための段階的な方策あるいは市のサイドで料金を徴収していくその方法、期日、どのへんからやっていくか。それらに対する具体的な方策を清掃審議会にかけるべきである。このように思いますけれども、その意思があるかどうか。ちょっとお尋ねしたいと思います。市長さんお願いします。



○市長（本間 謙君） 今の石井議員さんのことでございますが、まだ清掃審議会にかかるような段階じゃございません。今、検討を進めてあれや、これやっておりますから、それらがまとまる時期についてはもちろん審議会にかけたいと存じます。

○八番（石井武敏君） ただいまの御答弁によりますと、審議会にかかる前の腹といいますか、方策、具体的なものはまだまとまってないというような御答弁でしたけれども、やはりこの汲み取り問題は市民が注目をしておる問題である。これは決して大げさないい方ではないと思います。

やはり、すみやかに取り囲まれて、やはり議会でも何回も何回もくどいように論じられておりますし、また全員協議会でも論じられております。これほど一つの問題で多く論じられた問題は見当たらないと思います。館山市議会でも。

ですから、何らかの前進というものが、大幅な市営化という理想に向って大幅な前進は望めないとしても、たとえ一歩でも、二歩でも確実な歩み、それに近づく前進というものがなければならぬように思うわけです。

そういう点からして、早急に考えをまとめられて審議会に開かれべきだ。このように要望いたします。

また、公害問題に移りますけれども、そういった川へのふん尿の投棄これはなかなかむずかしい問題で今、牛もふえておりますし、館山保健所の調査によりますと、たとえばそれによって河川が非常によごれている。そればかりじゃありませんけれども、六日の保健所の調べによりますと、やはり海水一〇〇〇〇の中に大腸菌あるいはその他のバクテリアの数というものが非常に含まれ

ていて、特に館山桟橋近くは遊泳が望ましくないというように保健所で判断されておりますので、これはたいへんな問題になるんじゃないかと思えます。

そういうことで、これらの問題は、私の聞くところによりますと、警告を受けて始末書を取ったあとにも雨の日に流したというようなニュースが私のところに入っておりますけれども、この点につきましても、しっかりと指導、監督をしていただきたいと思います。

また、河川への投棄ではなくて、今度は川に流したものでなく、畑やあるいは住宅地近くの畑に上積みされたふん尿、これについてちょっとお尋ねしたいんですけれども、館山市の公害防止条例第二条には、公害の規定の中には「土壌の汚染あるいは悪臭によって人の健康または生活環境にかかわる被害を生ずること」を公害というように規定されておりますね。

私もう一つ取り上げたい実例は、この公害のワタにがっちりまっっているわけなんですけれども、規定の中にはまっっている問題なんです。

市内の第一中学校付近における住民から私のところに苦情がありました。牛のふん尿の投棄でありますけれども、住民のなまの切実な声は胸を打たれるものがあるわけなんです。確かに、このままでは生活ができません。夏でも窓を締め切らないと臭いが入ってきてとても食べものも食べられない。たまたまちゅうど食事どきになりますとそういうふん尿の投棄があるというので、めしものろろく食べられない。こういうような切実な声を私も聞きまして、市当局のほうに実情を話しまして対策方をお願いしたわけ



なんですけれども、これに對してどのように考えるか。対策を立てているのかどうか。なにかあまりはつきりした対策がないように受け取れるんですけれども、この点一点お伺いしたいと思えます。

○衛生課長（館石勘治君） 御指摘の一中の筋向かいですが、畑に確かに牛のふんでございます。尿のほうではないんですが、ふんが直径一〇メートルちょっとのものが畑に置かれているわけでございます。その畑は所有者の畑なんですございますが、そのすぐ脇に今住民がおりまして、その方からふんがくさいからという申し出があったわけでございます。

どうも、係員を派遣いたしましてよく内容を調査いたしましたところ、どうも畑の所有者と、それからそこが長屋になっておりまして、長屋の家主との間に少し個人間の紛糾があったようでございます。そういったことを根に持って、そうしてそこにふんが積まれているように思われるわけでございますが、いずれにしても、これから夏にまいますと、非常にそういう長屋の人たちに対して本当にくさくなりますので、カ、ハエ等の発生等も考えられますし、何とかしなければならぬところ考えておりますけれども、どうもその問題の発生源がそういった感情にからまっております。

また、公害条例等でしょうというふうに考えましても、どうも基準に該当しないようにも思われてまいりますので、それは両者を間を何とか話し合わせてこのふんの解決をすれば一挙に解決するんじゃないかと、私はこう考えておるわけでございます。今後両者の被害者と加害者との間の解決するような方法で私たち努力し

ていきたいと思っております。畑はたくさんあるんですから、そこにまきちらかしてしまえば、これは問題はないわけでございます。そのような方向で解決していこう。こう考えております。

○八番（石井武敏君） これは畜産公害に關しましては、住民が何とかしてください。何とかしてくださいというような声がこの議会にありました。切実に聞かえてくるような感じがいたします。実際、私も行って立ち会いましたけれども、ひどいものだと思えました。感情的な問題、複雑な人間關係があるかもしれないけれども、それだけで、感情的な問題があるからそれでいいとか、自分のところで自分の土地に処理する。だから何をやってもいいというもう時代が違うと思います。

館山市の公害防止条例の第一条には「市民の健康を保護するとともに快適な生活環境を保全することを目的とする。」というような条例も組まれたわけなんです。この条例をきめるときには今私の記憶にありますのは非常に細かい問題までどういうものが公害に入るんだ。たとえば、きかない話ばかり触れて申しわけないんですけれども、犬が毎朝散歩する。犬がふんをするのは公害に入るとか、あるいは会合をやって念仏の声があれば公害になるのかという細かい問題まで微に入り細に入り討議されてこの条文というものをつくった。

それらに比べれば、これは何とかしなければならぬ問題ではないか。畜産公害は何とかなければならぬ。このように思うわけです。罰則規定もございすし、こういった問題が処理されないとすれば、この条文がそのもの、つくったそのものが原点がやぶまれるわけですよ。条文が有名無実ではないか。働きのない



条文だったら削ればいいじゃないかという考えも反発的に起こるわけです。

また、時期柄、季節柄いろんな点からこれらの問題は非常に市民生活にとって重要な意味を含んでいるわけです。感情的の問題をまず解決してよく話し合いをする。それも必要でしょう。しかし、市当局の姿勢としてはこれらの条文をつくったんですから、条文、罰則に基づいて胸を張ってもっときちっと積極的に指導してもらいたい。なんか弱腰のような感を受け取れるので、この条文をつくったからには条文を全うする責任があるということで取り組んでももらいたい旨を希望いたしまして、私の質問を終わりたいと思います。

○議長（吉田勇治郎君） 次、田村源治郎君。

（二三番議員田村源治郎君登壇） （拍手）

○二三番（田村源治郎君） 私は、三点を市長にお聞きしたいと思っています。

食品総合小売りセンターをつくる考えがないかと、二点は海水汚染について市当局の考えを聞きたい。館山駅の移転と道路整備はいかに考えるかということでありますけれども、第一点に、館山市に対して館山市の漁業という地域に恵まれているにもかかわらず、衣食住は昔から住んでいると、衣は自分の収入あるいはバランスを取って着ている。住み家というものは大部分九割が自分で買ったり、昔からの家に住んである。食における食料品は都市より一般の価格は館山市は特に高い。その理由はどこにあるかと。われわれの生活というのは、まず衣食住があって、食料品が生活安定が第一番だ。そのものはなぜ高いんだ。いつまでたって

も館山の食料品というものは高い。生産されるものがある。漁業もあるというのに、市はこれらの食料品を無秩序に統制なく、行政指導をやらないうで放置するから不衛生な食品を一般市民に業者が売っているような始末。ただ衛生、衛生というけれども、店舗を調べればいいのか。店舗も肝心だろう。入る生産物を衛生的に関門を通過する。あるいは目を通すというのでなければ衛生食品の流通というものはならない。なぜそのような行政指導を怠るんだ。

私は、私なりにこの食料品というものは小売りセンターをこしらえて、そこに衛生関門というものを設け、生産者直通の販売を行ない、現在館山市における食料品を販売する業者を、店舗をつくりそこに入店させ、衛生的にお互いが店舗、店舗において自分の価格あるいは仕入れ価格で競争すべきだ。競売することになったならば、いわゆる市民は買い出しにきてもこの魚は鮮度がわるい。鮮度がいいのはこれだけだ。鮮度は同じだけれども、隣の店は高いとか、安いんだとか、高く売っておればその店は必ずあすまで残してしまふ。だから仕入れが肝心である。同時に仕入れても安く売らなければお客が買わない。だから、一つの店舗に十なりの業者を入れて競売、お互いに競売すべきだ。競争して売らすべきだ。野菜でもそのとおり。卵、鶏卵も館山も生産してある。そのとおり。食肉関係もどうか。

これらを考えると、市長がやる気なら委員をつくり、公社より資金は出るはずなんだ。いいかえれば、ウサギみたいなあんな変てこりんなものを公社で扱って何の利益になるか。だれもまねするものはない。そうでしょう。これらの店舗や施設を早急につくべきだ。東京、船橋、千葉、木更津にもある。そういう総合セ



ンター。そうしたら、それは入店者から賦課金を出して徴収すべきであろう。必ずや他の都市よりも館山市として衛生的な食料品が安く、また市民に目の通るものが間違いないで上るんじゃないか。市民が喜ぶだろうと思う。

市長は、市民に安い衛生的な食料品を与えべきであると、私はそう考えます。(拍手)

次は、二点ありますが、現在テレビ、その他に海水汚染が叫ばれています。きょうもいろいろ東京市場においてイワシ、コノシロ、クロダイ、スズキあらゆる内湾が汚染されていると、ただPCBの発見が少ないというだけで、のみにとどまっております。実際にはまだまだ調べれば汚染度が高いだろうと思います。

今や、イワシ、コノシロは東京湾の奥で取れたものは、いわゆる富津沖から東京に近いものは皆無だ。そのような時代において館山の海面のなさにおけるものがどのような海水の有機物が存在するか、明細にこれは説明をお願いしたい。また現在、汚染の原因になる学術の研究はいかにやっておるか。これは水産課。

それから、館山市はこうになって公害防止条例をつくった。館山市の海、河川の汚染防止条例をつくる考えはないか。将来の海水汚染の防止を考えれば魚、あらゆるものがどうなるんだ。河川にいるもの、水も使えなくなる。水道の水も危険な水になるということになってどのような処置を考えているか。ひとつ当局にお願いしたい。

次は、私も就任以来、館山市というものはいかに発展のものを失っているか。館山市の町形成づくりをよく考えて見ると。館山の駅より中心になって商業いろんなものが開けておる。漁港に面

するところは、漁港から開けていけば山の手にあってもあえてさしつかえない。

館山みたいの町は、二十万都市以下の町については、木更津十萬、千葉やはり商業という盛んな駅から道が広くできておる。今や、館山市が昔の大正時代の旧町づくりの駅前で現在の混雑の交通量を見ていると、いろいろのことで人災が起こらぬとも知れない。あの中に道路の狭さ、この六軒町から歩くにも歩道もない。つとめて自動車をかわして歩いている。これを市長はいかにながめているか。

これらを考えると、また館山に落ちている下水の問題、下水工事それらを考えるとき、どうしても館山市は将来に対して駅移転を考えなくちゃならない。それらの駅移転は現在九重か、船形までの間を適当な土地づくりを考えなくて、館山市が何の発展性の意味になるか。

新しい都市、館山駅を移転して下水、防災、道路、教育、産業歩道、並木をつくってこそ館山市はりっぱに電化により館山市から他都市に通うことができる。それなくして館山市の発展は望めない町である。現在見込める町ではないから、観光上それらを市長はいかにして考えているか。

さらに、問題は公社をつくってあるんだから、公社をつくって年次計画においてそれらの問題に委員、あらゆる館山市の発展のために新しい駅の広場と、そうして木更津に負けないような、木更津も現在やっておる。木更津より一步遅れておる。あるいは勝浦より遅れておる。

道路、産業、商業にかけて駅より発展する町だ。駅をもっと整



備して、もっと館山市に環境のいい町、館山市の大発展を願う考えはないか。できればこれは早急に委員会、また促進委員会をつくって、駅の改造移転は、現在われわれが住んでいる古い家を改造しても、やはり建て直さなければならぬ。そういうものにこだわるようにきょう新聞見たら、りっぱな駅前を移転してもっと広い駅、海岸両面を向いたようになりっぱな駅をつくる。そうしてそこに新しい大きな商店が生まれるじゃないか。

それにおいて、いろいろな面の有効なものが存在してくると思う。他によほどの予算がなければ、それらのことを年次において積んだり、計画していくべき必要性が多々あるんじゃないかと思ひます。これで終ります。(拍手)

(市長本問 讀君登壇)

○市長(本問 讀君) 田村議員さんの御質問に対してお答えをいたしたいと思ひます。

第一点は、食品総合センターをつくらぬか、こういうようなことでございますが、これは総合センターは現在の情勢では人口二十万ですか、通勤距離が一時間ぐらいのところ、そうして一億円かかって国が千二百万、県が一千万だか助成をする。こういうことで現在は千葉に二カ所、船橋に一カ所、君津地方に一カ所こういうところにてきておるんですが、そういう自分の費用だけでやるならともかく、そういう指導と助成を得てやるにはちょっと該當しない。こういうことでございますが、田村さんのおっしゃる物価が高いということは、そういうこともいわれると思ひますが、これに対しては夏季等については、商人の方々やなんかはひとつよく考へてなるべく安く売ってもらいたいということをお

願ひしておるわけでございます。

私は、田村さんのおっしゃるのは、直売所を設けるというようなふうに思つたんですが、そうでなくセンターをつくって、そこに魚屋は魚屋で、八百屋は八百屋でそこに入れてやるというふうに御説明があつたと思ひますが、これはやはり団地の多いところとか、なんとかが一番いいじゃないかと思ひますが、総合センターはそういう意味で館山では無理じゃないかと考へておりますがやはり物価を安定させるということは、これはなかなかむずかしいですね。政府のほうでもずいぶんいろいろやっておるようですが、うまくいかないんですが、やはり需要と供給の關係が主たるものと思ひます。

たくさん大きな冷蔵庫でもつくつておいて、銚子沖にイワシがうんと安く揚つて取れたというような場合に買つてきて冷蔵庫にぶつ込んでおいて、ないときに出して売るといふような式で、野菜なんかレタスなんかたくさん取れたときに安いですね。そういうときに冷蔵庫に入れておいて保管して売るといふようなこともありましようし、また生活協同組合ですか、そういうようなものもよそにはあるらしいですが、そういうものができれば生活協同組合にもできるだけ助成して物価の安定をはかりたい。こういうふうに考へておるわけでございますが、一番理想的のことは、世の中は通用しません、生産者から直接需要家を買つてきて売ることが一番理想ですね。中間をはぶいてしまふことが、中間のマージンをはぶいてしまふことが理想とするところですが、社会の機構もできておりますし、そういうことにもまゐらないと思ひますが、やはりたくさん取れたときの保管方法というものも必要に



やないかと思いますが、いずれにしても総合小売りセンターは今のような情勢でございまして、ちょっと館山は無理じゃないか、こういうふうに考えておる次第でございまして。

それから、海水汚染についてですが、これはやはり川と船から流すものによって相当汚染、汚濁されるわけでございまして、これは水質汚染防止法や海洋汚染防止法等の法律によりそれぞれ規制があるわけでございまして、こういうことも大きく考えてもらわなくちゃならぬじゃないかと思いますが、それから海水の汚染はきわめて重要な問題でございまして、館山の場合ですと、やはり河川あるいは船から投棄するようなものによって現在行なわれておるじゃないかと思いますが、何といても海は東京からでもどこからでもくつついておりますから、どこからかいろんなものが流れてくる。それが魚屋なんかに影響することになると思いますが、ずいぶんこれはむずかしい問題でございまして、ひとつそれぞれ住民の方の理解を得て、また関係業者の理解を得てやっていかなければならないと考える次第でございまして。

それから、館山駅を移転して道路を広げていかないか、こういうことでございまして、館山駅を移転するということは、田村さんのおっしゃることはごもっとも、理想的のことと存じますが、これは実際問題としてなかなかむずかしい問題でございまして、結局現在の駅に西口をつくって駅を改築して、館山市にふさわしい駅にしようということと市内の商工関係者が今振興助成の会をつくってこれから運動を起こすということとございまして、市も三月の市会でしたか、これらに対する助成を認めていただいておりますが、市も商工業者とともにこの運動に参加

してりっぱな駅舎をつくっていききたいと思うわけでございますが、それから道路が狭くてという御意見でございまして、道路というのはなかなかむずかしい問題でございまして、

その前に、海水汚染防止条例で何かというものをつくる意思はないかというんですが、現在の法律に基づいて設置してあるもので、これを活用すれば、私はその点はだいいじょうぶだと思っております。現在そういう条例をつくることは考えておらないわけでございます。

それから、道路の狭いということもごもっともの点でございまして、これはなかなか簡単にはいかないし、都市計画ができておりました、それによりますと、六軒町あたりは一八メートルということになっておるし、それから汚水の処理水ですか、というものは五十一年度から下水の仕事をしよう。こういうことになっております、その際にできれば解決できるだろうと思っておりますが、また、道路については都市計画による都市の改造というんですか、そういう面と、それから一二七号のバイパス線がこの館山を通ることになりますから、そういうことによってこれが緩和ができるじゃないかと思いますが、先のことになりますけれども、とにかく都市計画によって大体できておりますから、それによりますとそういうふうに道も広がるし、なかなか大きな事業でございまして、国やなんかの助成によってこれがやれる運びになり、いついつかということにいきませんけれども、そういう手はずになっております、御了承いただきたいと思います。

〇二二番（田村源治郎君） 今、市長がいわれたけれども、この小売りセンターは卸市場とは全然違う。市長は卸センターであって



卸市場であって、小売りセンターは卸ではないんだ。市長は全然知らないんだ。小売りセンターというものは卸市場ではないんだ。

今、県から出されているのは卸市場、農林市場、局卸市場、漁港もそこにある船形市場これは卸市場になっておる。富崎、西岬、局卸的卸、卸じゃないんです。補助がなくてもいいじゃないか、小売りセンターですよ。これは理解がないからできないということとをいってるんですよ。小売りセンターというものは局部的な卸に同じ中では該当しないんだ。卸市場にする場合には、そこに集荷して仲買人に分けてやったりする場合には卸市場である。

これは、直通の卸市場を抜いておる。小売りセンターの競売である。市長は全然この卸市場というものと見解が間違ひ過ぎておる。全然知らない。物価に対してもっと係の人に聞きたい。

それでなくては、館山市の生鮮食料品はいかに安くなるか、なにもむずかしくない設備である。当然やるべきだ。夏野菜の補助、低物価政策を口にいったって大した市民の効果はありはしない。市の小売りセンターというものは即座にやるべきだ。卸市場とは全然違うので、その一点を明らかにしてもらいたい。そうでなかったら、この小売りセンターをつくる意思はないか。

次は、海水汚染であるけれども、今、条例をつくる気はない。市は何ゆえに公害条例は県、国も出して市は何ゆえに公害条例をやった。市はやつてもさしつかえない条例ではないか。今つくる気がない。あまりに放言ではなからうか。私はそう考えます。

同時に、市長は船から投棄する。その海の中にどういう混合体があって現在の魚汚染、われわれ漁民である者は、同時にいろんな海の海水に対して分析を行なっておる。館山市は無関係である。

今現在よごれておる原因、どうして魚が食えなくなるんだ。どうするんだ。これは海の船が通り過ぎてうっちゃっていく。私はあまり無関心、理解に苦しむものだ。

私は、水産課に対して、どのような館山市の海に、どのような混合体いわれる海水を持っているか。それには、一点いふならば、現在のカドミウムとか、あるいはどういうものか。これは調べる必要性があるので、自分の前の海であるから、館山市における行政面において、どういう有機物が入っているかと、現在魚のPOB、有機農薬い入るものがあるだろう。現在の海水に混合されておる。学術の研究のデーターを出してもらいたい。そういうことは水産課もやっているだろうと思う。そうしてこれをはかりしていくか。また、汚染防止処置はいかにするか。それらをひとつお聞きしたい。

次、駅はだめだと、昔からやったところどうして移転しないか。現市長は移転の気持はない。これは次の市長がやらざるを得ない。六軒町は計画は一八メートル、これはあまりに放言過ぎるのじゃないか。都市計画ではそうなるにしても六軒町が一八メートルになるか。だれも信じない。都市計画は無能であると思います。

ならば、現実に向って市民が館山市をよくする防災、下水、産業、商業の発展をいかにしていくかということを課長でもだれてもいいから、三点を質問者に明確に答えていただきたい。

○商工観光課長（鈴木 力君） お答え申し上げますが、まず第一点の食品小売りセンターの内容でございすけれども、先ほど市長のほうから御説明申し上げました県内にございす公設の小売りセンターにつきましては、いずれも卸売り業はやらなわけでは



ございました、いわゆる消費者保護対策の一環といたしまして、もちろん物価安定の対策の一環としてやっておるわけでございますし、市営をもちましてあるいは町営をもちまして、公営をもって直営販売を行なっておるわけでございます。

方法といたしましては、やはり市内業者の入店によりまして、食品とか、日用雑貨品とか、文具とか、医療品とかそういう総合的な小売りセンター、昨年私、千葉市の稲毛の小売りセンターに直接まいりまして見てきたわけでございますけれども、状況をいろいろ聞いたり、見たりしてきたわけでございますけれども、確かに販売価格というものは一般市販より若干安い状態でございます。

物価安定の上から、あるいは消費者対策、保護の上からまことにけっこうな施設である。このように感じたわけでございますけれども、ただ、館山市におきまして、これらの食品小売りセンターを設置しようとする場合におきまして、やはり経費的に莫大な経費がかかるわけでございますので、国、県の助成というものが得られれば、またその時点で考えたらいいじゃないか。このように考えておるわけでございまして、確かにその食品小売りのセンターというものの設置の必要性というものは、現在あるんじゃないかなというふうに考えておるわけでございます。以上でございます。

〇二二番（田村源治郎君） 小売りセンター何も補助がなくてもいいんだ。この金は公社から出して、建物、敷地に対して入った業者に賦課金をかければいいんだ。補助なくしてできるんだ。やる気なら、いわゆるスーパーにいても、スーパーは自分で独占し

て魚屋一軒しかない。

だから、ああいうスーパー的な建物を建てて、そうして五軒なら五軒競争させるんだ。そうして売らせるんだ。あんたがいうことはピンとがはずれておるじゃないか。金がない。あるじゃないか、公社から出して賦課金で取れるじゃないか。不安定のような答弁だ。やる気がないからそのような答弁をする。もっと真剣になつて、やる気がないから答弁があやふやだ。小売り市場だか、小売りセンターだか、スーパーだかわからないような答弁だ。あんた卸市場というものは明確のものがわかりますか。

私はその道でかつて東京から卸市場、仲買、大都会いろんな仲買をやつて、組合の卸も役員になった。公的の卸市場に対して、直通に団地で販売するあれだつて一つのものだ。現在の卸市場に対する野菜は一割、魚は五割乃至六割の手数料を取られるんだ。それを廃止してその中で販売する。おもては衛生、保健所が監視して衛生的な、安く直通になるんだ。手数料を取らないからそれを直通、生産者販売というんだ。団地でもやっておる。あるいは移動販売、あれは団地に行つて両方やって販売やつたらどっちが勝てるか。安くて鮮度のいいものが勝てるんだ。実際に団地で生産地直送をやっているけれども、二社いけば明確に安い、高いがわかる。

市内の人は、物価というものに生鮮食料品は市民は安い、高いかわかりはしない。そのために、多いときには多い魚屋が暴落するんだ。隣があるから安く売られては自分が損するというような状態にしていけば、小売りセンター、競争者を入れて。全然やる気がないから答弁があやふやだ。何が資金がないですか。私が



市長ならやりますよ。(笑声) このぐらいにしますから、その次答弁願います。

○衛生課長(館石勘治君) 海水防止法という事でございますが、これは国のほうで海洋汚濁防止法というものがつくられておりますし、管轄は、監視機関といいますが、監督機関は海上保安庁が監視にあつてゐるわけでございますが、

(「海水汚染の内容の原因について説明を」との声あり)

権限は市町長は持つておりません。それから海水汚濁法に基づく権限は県知事でございます。したがしまして、そういうものの調査は館山市としては現在できません。また、調査する段階には非常に膨大な費用がかかるわけでございます。したがしまして、現在調査している段階のものは環境基準として水質の調査資料は出ております。今、有害物質の調査資料になりますと、現在、館山市ではありません。以上でございます。

○二二番(田村源治郎君) 現在、原因と見られる学術研究どのような原因をなしているか。これは水産課に問いたいわけです。あんなが、私は水産課といつたんです。こんな海水汚染は国も県も海水防止条例をつくつておる。それぐらい私たちも研究していませんよ。

現在、館山市に見られる水に対してどのようなものがあるか。夏の海水について私らやっています。夏の海水に対して大腸菌がいるとか、いないとか調べているんです。そうでしょう。あんたがやっているでしょう。このきたない水に大腸菌いっぱい泳がせていいか。

私のデータにおける学術研究した、自ずも研究したところによ

って、まず第一番にあんた方知識が私よりないから教えてやりなすよ。(笑声) カドミウム、油類、有機物汚染、重金属の農薬有機物農薬、それから洗剤、下水の不完備、そういう中にし尿の不完備、河川を洗浄してやらない酸素不足、塩素不足それらが館山市のどの海にも内湾から、ときに東京湾から館山市にきているんだ。これらが多くなつたら大腸菌ばかりいなくても泳げる海ではなくなるんだ。港の水みために、館山の商業港みためにきたなくて、何ゆえにあんた方はもっとそれらを研究しないか。

まだまだ研究することもあるけれども、これらを研究して何とか将来に海水を汚染させないようなくふうをしてもらいたい。これは希望です。これで打ち切ります。

三点お願いします。

○土木課長(飯田治男君) 駅周辺の道路整備について御説明申し上げます。

昭和四十四年三月三十一日に館山市の都市計画道路といまして、現在の国道一二七号線は、千葉銀行から八幡神社までが一応二メートルの区画でございます。駅の西口が開設、現在の駅の位置でその当時計画を立てまして、駅の裏口が約五、五〇〇平方メートルの駅前広場を設けまして、それから海岸道路まで一八メートルの道路を接続するといふような計画になっております。

○二二番(田村源治郎君) 確かに、市は都市計画に基づいた一八メートル道路をつくる。計画ばかりあって予算が出てない。ただ計画が出てあります。だれだつて計画書きます。計画を立てたら市の委員会をつくつてやるべきですよ。館山市大きな計画ばかり



つくっても無意味です。どう考えますか。いつやるんだか、これは計画をやってますといっても、これらを実際に実地に、実用的に生かして促進して早くやっていただきたい。これらに対してこれを要望して打ち切ります。

○議長（吉田勇治郎君） 暫時休憩いたします。

午後三時五十九分 休 憩

午後四時 十二分 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

### 発言の取消し

○議長（吉田勇治郎君） ただいま二二番議員さんの発言中、給料云々という発言がございましたが、その個所について本人より取り消したい旨の発言がございましたので、これを許可するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって許可されました。

次、栗原一雄君。

（六番議員栗原一雄君登壇） （拍手）

○六番（栗原一雄君） 私は、一点について御質問申し上げます。海水浴シーズンをもくえた北条橋の原状回復の問題についてでございます。

館山市の観光シーズンであります海水浴の季節がおとすれ、観光都市といわれながら、一季観光の性格の強い館山市は、四季を通して今こそ一番大切な時期であり、市外さらには広く県外の人

々に館山市をＰＦする絶好のチャンスであり、それらを有効に生かしながら、四季観光に移行すべきであろうと考えるわけであります。

私は、本年三月の議会において、当市の観光のポイントについて御質問いたしましたところ、答弁の中に首都圏における水の公園としての中心地というようなことが最高のポイントじゃないか。性格じゃないか。かように考えるわけですが、との御答弁をいただいたのでありますが、しかしながら、この問題は、昭和四十一年に相当な調査費をかけ、館山市の利点を生かした観光への方向づけをされ、今日まで語られてまいったのであります。

さて、今年は、千葉県は国体開催県であり、しかも館山市のその地形の利点を生かした水上競技でありますヨット競技の開催地であることは、私がここで述べることなく、御承知のとおりでございます。

当然、全国各地より選手、役員、その他のお客さまが大ぜいおいでになるわけでございますが、それらの方々に好印象を与えることは、市民一人一人の接する心はもちろんでございますが、当然市の財産であります自然と施設の全般的な美観もともに合わせて必要であろうと考えるわけであります。

各国体開催市町村も整備についてはやっきとなっているわけでありますが、それは現実的に来て見て、感じていただくわけでございますので、当然十分受け入れ体制を整え、市外の方々に館山に来てよかったと喜んでいただくことが真のＰＦであり、観光館山を再確認していただく意味からも絶好のチャンスであろうと考えるわけであります。



しかしながら、現実的には海水浴をひかえ、なお国体をひかえての館山湾の中心に位置する北条桟橋が本年二月二十四日午後の強風により、西日本ブッシャー株式会社の所有船舶でありますブッシャーバージが衝突、先端を約七〇メートルを決壊いたしました。そのままの状況においては海水浴には非常に危険を伴います。

なお、国体にはまことに美観をそねるものであり、市外の方々に對する印象は、館山市の経済力の非力、政治姿勢の弱さを表現するものでありますので、早急に原状回復の措置を講ずるべきであろうと考え、私はその後の経過についてお尋ねするわけでございます。以上でございます。

(市長本間 譲君登壇)

○市長(本間 譲君) 栗原議員さんの御質問に對してお答えいたしたいと思いますが、御指摘のことについては非常に延びておりまして、この点は非常に申しわけないと考えておる次第でございます。

あれは、西日本ブッシャー株式会社により衝突破壊された。こういうわけでございますが、直後に会社からまいりまして、あのような損害を与えて申しわけないから、会社の費用によってこれを復旧するから、こういうことでありましたが、再三にわたってこちらからも追及をしたんですが、結局市内の業者によってあれを復旧しなければならぬということをむこうでおっしゃってあって、業者との話し合い、見積りがついたそうですが、業者のほうの仕事の関係上延びた。こういうことでございますが、二十五日の少なくとも海水開きまでは何とかさせるように、これはいたす

考えでございますので、御了承おきをいただきたいと存じます。以上です。

○六番(栗原一雄君) 二十五日の海水浴開きまで直すということでございますが、たいへんなことだろうと思います。約四〇メートルぐらいいないわけですが、私は破損いたしましたして早速北条桟橋を見にまいりまして、先般の十日の日曜日でございます。北条桟橋にまいりましたら、それ以上に、その後の風波ということで破損も非常に大きくなっておりますので、これは館山市が本当に観光に生きているという考え方でございますならば、やはり館山市の湾の中心に位置するという考え方から申しまして、早急に直すべきであろう。このように考えるわけでございます。

と申しますのは、地方財政法の財産の管理ということで、第八条に「地方公共団体の財産は、常に良好の状態においてこれを管理し、その所有の目的に應じて最も効果的にこれを運用しなければならぬ。」このように規定されておりますが、果して現在それが館山市の最も観光として伸びなければいけない一季観光の性格の強い館山が、海開きを開く前になっても何ら措置をしないというところに、私は問題があるかと思ひます。

もちろん、北条桟橋でございますので、あれは公有財産ということになりますと、市民一人一人のやはり財産であるということから考えましても、館山市が請求権があるかと思ひますが、この問題は早く全協のときに話題が出たのでございますが、その後私も昨日そしてなお一週間ほど前会社、その他のところを調査してまいったのでございますが、どうもやる様子も現時点ではなさそうだ。非常にそういったムードも強いようでございます。



そういったことで、これは市民の共有財産であるということから請求を即座に見積り、その他について請求する権利があるのじやなかるうか。そういった見積り、その他についてどういう措置を講じたか。御答弁いただきたいと思ひます。

(「十日でできるか。答弁正確に」と呼ぶ者あり)

○土木課長(飯田治男君) 先月でございますが、西日本ブッシャーの横浜の営業所の所長がまいりまして、いろいろ会社のほうの事情でここまで延びたということで、私のところにあやまりにみえたわけです。その前にも私のほうから、私のほうでかけ直したときの図面がございますので、それを西日本ブッシャーのほうにお渡しいたしました、一応会社の方で業者に見積らせてもらいたい。その見積ったものをもって私らと話し合いをするようにというところで、その図面を持ってむこうにお帰りになったんですが業者を紹介してくれということですので、二、三業者を紹介したわけです。

ところが、業者も相当手持ちの仕事がだいぶあるので、私のほうからその業者にも催促はしたんですが、なかなか設計の見積りのほうがかどらないので、それでは私のほうで一応どの程度最初に概算の復旧費というものは出しましたんですが、ある程度あそこにあります古い材料を使ってなるたけ金をかけない形で復旧したいということで私どものほうで設計を始めまして、大体今九〇%ぐらい設計が進んでおります。それによりまして、市内の業者を呼びまして、すぐ手がかかれる業者に頼まなければならぬと思ひますので、その業者も会社のほうも立ち会いまして、今後の復旧ということをやりたいといふうに考へて

おります。

○六番(栗原一雄君) 今回の事故の問題でございますが、ブッシャーパージということで艀装船でないということで、船舶保険、その他が適用されないということでございます。

もちろん、船主さんが、いわゆるP Iと俗にいわれておりますが、日本船主組合に加入いたしておりますと、これは保険がおりるんだそうですが、その保険に入っているのか、いないのか。そういったことをお尋ねになったかどうか。そういったことをお尋ねしたいと思ひます。

○土木課長(飯田治男君) 聞きましたけれども、そういった保険には入っていないそうです。

この会社は、昨年四月にまだ発足したばかりで、仕事といったしましても、東京湾で初めて砂の運搬を始めたやさきのできごとだそうです。船そのものも全部が借金でつくったものだ。今後仕事をしてその借金を返済していかなければならないという理由はうなずける話なので、そういったことも加味して私たちは相手方と話し合うつもりです。

○六番(栗原一雄君) ただいま、市長さんが先ほど二十五日まで何とかしたいということでございますが、これは当然無理だろうと思ひます。あれだけの工事でございますので、しかしながら、館山のいわゆる観光のポイント水の都である。このように一つの方向づけだといふお話しも私伺っております。

そういった意味から考えますと、非常に棧橋は観光ということでは非常に大きなメリットを持っておるような感じでございます。もちろんそういった意味からも、もっとスローテンポでなくて、



民法の第七百九条にございます一般の不法行為、そういったものから考えられましても、当然請求権は館山市にあるうかと思えます。その会社が大きくても、小さくてもこれは請求権から申し上げるならば、われわれ市民にあるわけでございますので、積極的にこれと取り組んで少しでも早く館山市においてになるお客さまに安心して利用していただく。そうして館山市の一つの財産として、これからもあれを中心として水の都として発展するような方法を講じていただきたい。

この席をお借りいたしまして、あえてお願いいたしまして、この質問を打ち切りたいと思います。以上です。

○議長（吉田勇治郎君） 以上により通告者による一般質問を終わります。

## 散

会 午後四時二十七分散会

○議長（吉田勇治郎君） よって、本日の会議はこれにて散会いたします。

次会は、明六月十四日午前十時開会いたします。その議事は各議案の内容審議いたします。

○本日の会議に付した事件

## 一、行政一般通告質問



